

令和6年度

文化庁活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道

自治体名：北海道

担当課名：教育庁学校教育局部活動改革推進課

電話番号：011-206-6067

1.自治体の基本情報



基本情報

面積 (2024.1.1現在)	83,422 km ²
人口 (2024.12末現在)	5,045,338 人
公立中学校数 (札幌市立を除く) (2024.4.1現在)	440 校
公立中学校生徒数 (札幌市立を除く) (2023.5.1現在)	71,364 人
部活動数 (2024.12.1現在)	部活
都道府県の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
都道府県の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における都道府県の現状・課題

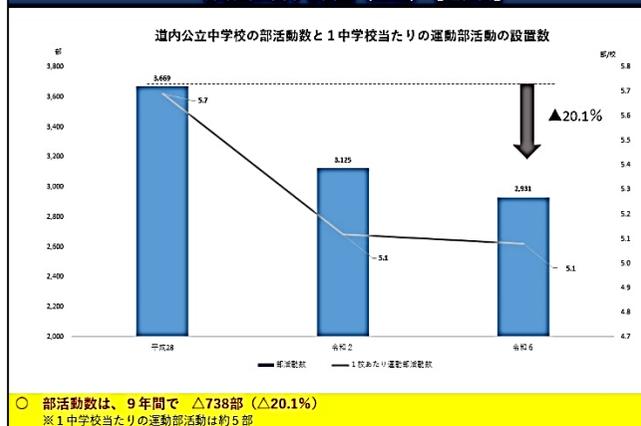
少子化における生徒数減、部活動数減、指導や大会運営等、教員の業務負担などが大きな課題となっており、学校単位で子どもたちのスポーツ・文化芸術環境を継続的に支えていくことは困難な状況にある。

生徒の望ましい成長のために、部活動の教育的意義を継承し、地域の持続可能で多様な環境の一体的な整備により、地域の実情に応じたスポーツ・文化芸術環境の最適化を図り体験格差を解消するとともに、学校における働き方改革を推進し、学校教育の質の向上を図ることが重要である。

複数の市町村で、地域の実情に応じた地域移行の実践を行うことで、好事例や課題を収集・検証し、多様な地域性を持つ広域な北海道におけるモデルとして、各市町村と共有していくことで全道の取組を促進する。

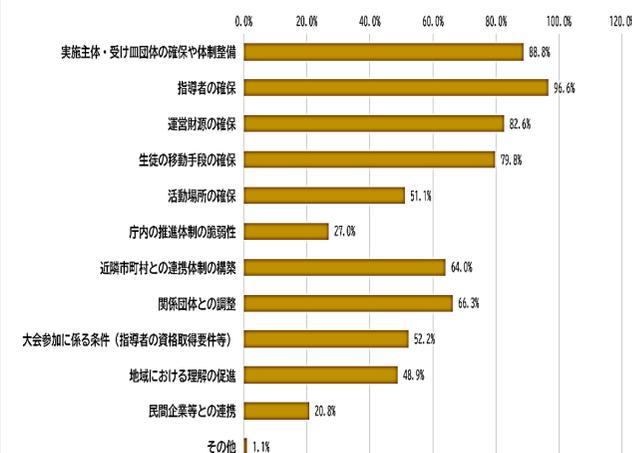
また、部活動を地域で行うという認識が道民の間で未だ広く認知されていない状況もあるため、地域移行の必要性やそのねらいを丁寧に説明し、理解を促進することも重要である。

部活動に関する調査 (R6.12) 【道教委】



部活動の地域移行に係る市町村の取組状況調査 (R6.12) 【道教委調査】

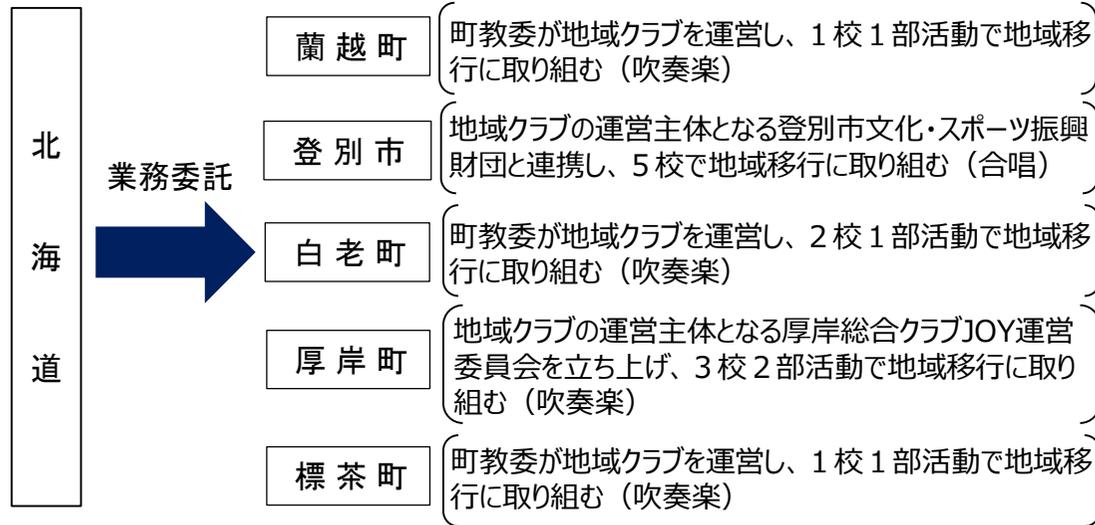
地域移行に向けた取組において、課題に感じている点について選択



「指導者の確保」が最も多く、続いて「実施主体・受け皿団体の確保や体制整備」「運営財源の確保」「生徒の移動手段の確保」が多い。(※前回調査結果と同様)

運営体制・役割

●運営体制図（都道府県における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（部活動改革推進課）

・教育局サポートチームを通じた市町村の取組の進捗管理、助言等の支援、アドバイザー（コーディネーター）の派遣による支援、人材バンクの運用、市町村間の調整、広報・啓発、官民連携による支援の推進等

◎首長部局

・文化振興課・・・文化の振興及び文化に係る企画及び総合調整（文化団体の活動支援等）
 ・官民連携推進局・・・官民連携で実施する取組に関する技術的助言や民間企業等との連絡調整等

年間の事業スケジュール

- 令和6年4月～令和7年3月（通年）
 - ・教育局サポートチームを通じた市町村の取組の進捗管理、助言等の支援
 - ・アドバイザー（コーディネーター）の派遣による市町村への助言等の支援
 - ・人材バンクの運用（札幌市との連携や民間企業、大学等への広報等を含む。）
 - ・市町村間の調整
（複数市町村が行う検討に係る協議の場の設定等）
 - ・地域移行に関する広報・啓発
 - ・官民連携による地域クラブ活動支援体制の構築・推進
- 部活動改革推進本部会議（年2回開催：8月、2月）
教育局サポートチームから報告のあった好事例や課題を整理し、関係部署が横断的に連携、施策を検討
- 部活動・地域クラブ活動関係者会議
（旧：地域クラブ活動推進協議会、年2回開催：10月、1月）
道内関係団体の代表者等が出席し、実証地域の事例紹介等を通じて、情報共有や意見交換を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

- イ：指導者の質の保障・量の確保
- ウ：関係団体・分野との連携強化
- エ：面的・広域的な取組

- オ：内容の充実
- カ：参加費用負担の支援等
- キ：学校施設の活用等
- ク：その他の取組



取組内容

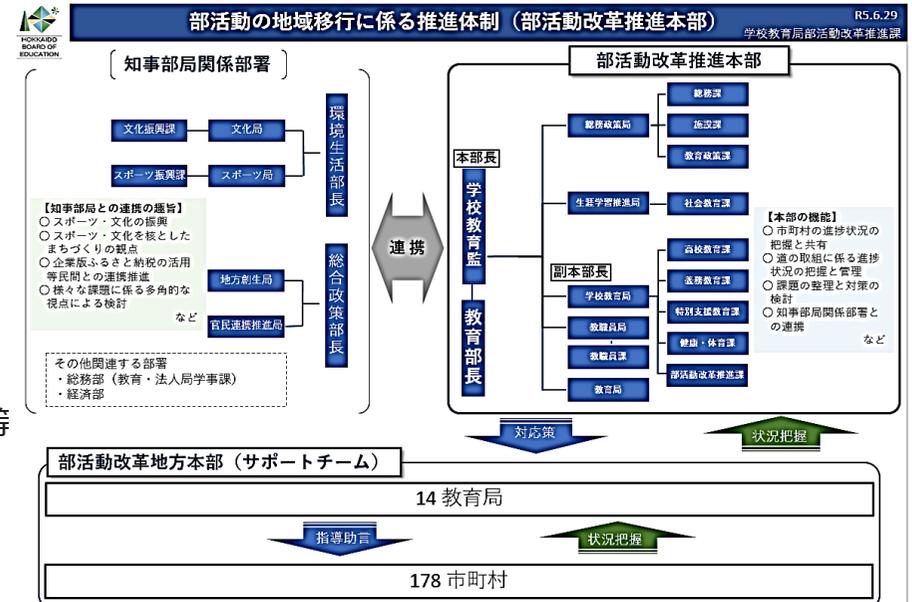
●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・多角的な視点から取り組むべき課題に対して、庁内横断的に取り組む体制構築のため「部活動改革推進本部」会議を年2回開催。
- ・道内14地域の各教育局に設置したサポートチームが市町村の進捗管理を行いながら好事例を把握し普及するほか、必要に応じて助言や支援を行う。
- ・「部活動の在り方検討支援アドバイザー」を市町村や14教育局に派遣し、関係者や地域住民に対する事例紹介や助言を実施。

取組の成果

- ・庁内関係部署で構成する部活動改革推進本部を年2回（8月、2月）開催し、市町村の進捗状況の把握や課題の整理を行うとともに、知事部局の関係部署と連携し地域移行に係る推進体制を構築することができた。
- ・市町村が主催する地域説明会や検討会議等に地域スポーツの実践経験者や大学教授等（6名）をアドバイザーとして派遣し、地域における個別の会議に対し、解決に向けた助言や提案を行うとともに、地域の実情を踏まえた検討や取組を進めるため、参考となる先進事例を提供することができた。



	アドバイザーを派遣した市町村数及び教育局数
令和6年度	20市町村、4教育局
令和5年度	37市町村、6教育局

今後の課題と対応方針

- ・部活動改革推進本部において、より一層知事部局との連携を図るとともに、道内14カ所の教育局に設置したサポートチームの機能を充実させ、市町村の課題に応じた助言や情報提供機能の強化を図る。
- ・アドバイザー派遣事業に関する一層の周知を行い、特に地域移行の取組が遅れている市町村における活用の促進を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ・令和5年3月に運用を開始した「ほっかいどう部活動・地域クラブ活動サポーターバンク」を積極的に周知し、地域の潜在的な指導者人材の発掘に努める。
- ・令和6年度からは札幌市との連携を本格的に開始し、本サポーターバンクの周知のほか登録者の積極的な活用を図る。
- ・民間企業等の職員や大学生の活用について検討を進める。

人材バンクの人数

397名(R7.1.31現在)

人材バンクの年齢構成

10代	9名
20代	97名
30代	62名
40代	84名
50代	72名
60代以上	73名

登録者属性

会社員、自営業、公務員、学生、学校職員、無職 等

種目

野球、サッカー、バスケットボール、バレーボール、ソフトボール、テニス、卓球、バドミントン、ラグビー体操、水泳、スキー、陸上、柔道、剣道、吹奏楽、合唱、茶道、華道、書道 等

資格有無

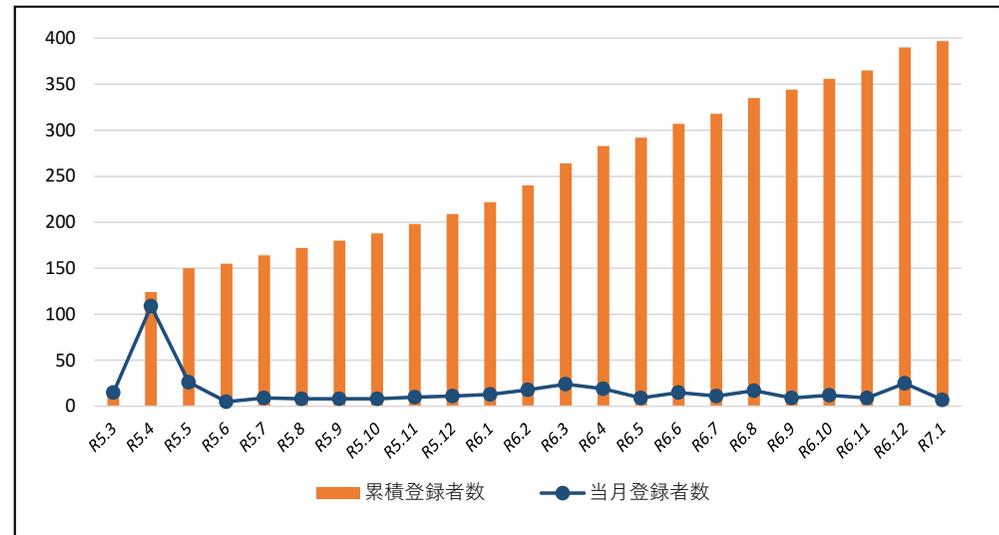
JSPOコーチ・指導員、各競技団体コーチライセンス・審判ライセンス、教員免許、書道師範 等

取組の成果

- ・人材バンクに関わり、札幌市と連携し、道教委からは人材情報を提供する一方で、札幌市教委から道教育大札幌校の学生向けにチラシが配布されるなど双方の取組により、登録者数が着実に増加した。
- ・また、家庭教育サポート企業や道スポーツ協会にも協力を依頼し、登録者数が増加。

今後の課題と対応方針

- ・地域による登録者の差が大きいことから、引き続き周知を図る。
- ・登録者が増える一方で、登録者の活用が十分に進んでいないので、その要因を分析するとともに対応を検討する。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

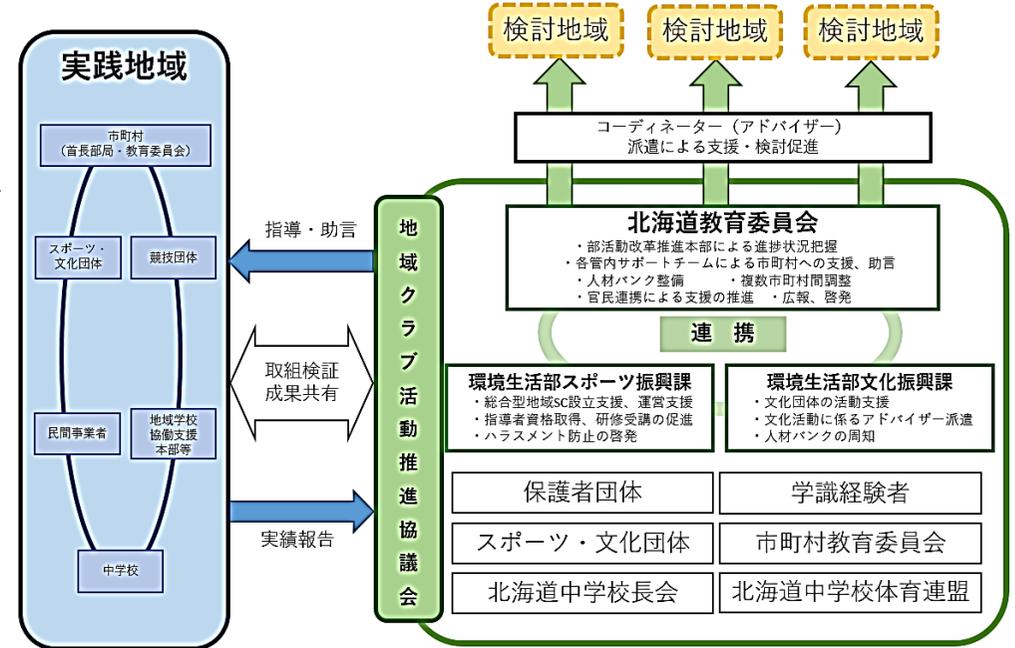
取組事項

・道内関係団体の代表者等を構成員とする「部活動・地域クラブ活動関係者会議」を開催し、実証地域の事例紹介等を通じて、情報共有や意見交換を行う。
 ・「ほっかいどう部活動・地域クラブ活動サポーターバンク」について、関係部署や大学、民間企業等の協力により学生や社員等へ周知する。

取組の成果

・会議を関係団体の代表者が一堂に会して開催したことで、様々な視点から幅広い意見交換を行うことや、市町村の取組状況や課題、道の取組等について情報共有を行うことができた。
 ・道内の実証地域（北見市、標茶町）から事例発表を行い、効果的な取組について広く共有することができた。
 ・関係部署や大学、民間企業等を通じてサポーターバンクの周知を行ったことにより、登録者数の増加に繋がった。

【部活動・地域クラブ活動関係者会議】



	周知した数
大学	北海道教育大学（5校）
民間企業等	道教委家庭教育サポート企業 2, 888社

今後の課題と対応方針

・地域クラブ活動推進協議会における意見交換や事例発表で明らかになった成果や課題を踏まえ、今後の市町村支援に向けた取組の検討を行っていく。
 ・サポーターバンクの周知について、より幅広い層への働きかけを行っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

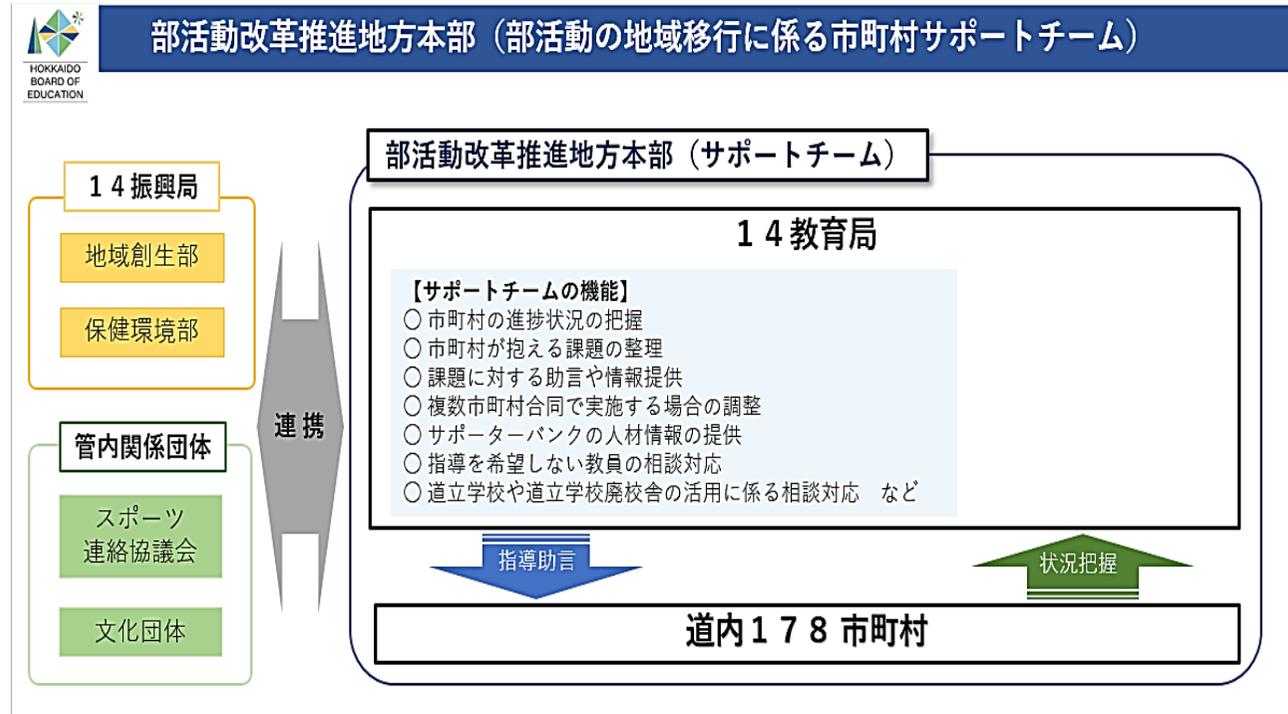


取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- ・教育局に設置するサポートチームが、地域移行に係る取組を複数市町村合同で行う場合の調整を行うほか、道内外の先進事例を発掘し市町村へ提供する。
- ・庁内に設置する「部活動改革推進本部」において、教育局サポートチームから報告のあった好事例や課題を整理し、関係部署が横断的に連携し、施策を検討するほか、会議や広報媒体を活用し、成果と全道へ普及する。



取組の成果

- ・部活動改革推進本部における市町村の進捗状況の把握や課題の整理により、本道全域による広域的な取組を進めることができた。
- ・市町村サポートチームによる各般の取組により、市町村の課題に応じた個別の助言や事例提供を行う体制の構築が進むとともに、複数市町村間の連携による取組など、広域的な取組の推進に向けた基盤づくりが進んだ。

今後の課題と対応方針

- ・部活動改革推進本部において把握した全道的な成果の普及により、効果的な取組の横展開を図る。
- ・市町村サポートチームの助言機能の向上と先進事例の蓄積及び周知により、市町村の課題に応じた支援が可能な体制の構築を進める。

2.実証内容と成果

- ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
- イ：指導者の質の保障・量の確保
- ウ：関係団体・分野との連携強化
- エ：面的・広域的な取組

- オ：内容の充実
- カ：参加費用負担の支援等
- キ：学校施設の活用等
- ク：その他の取組

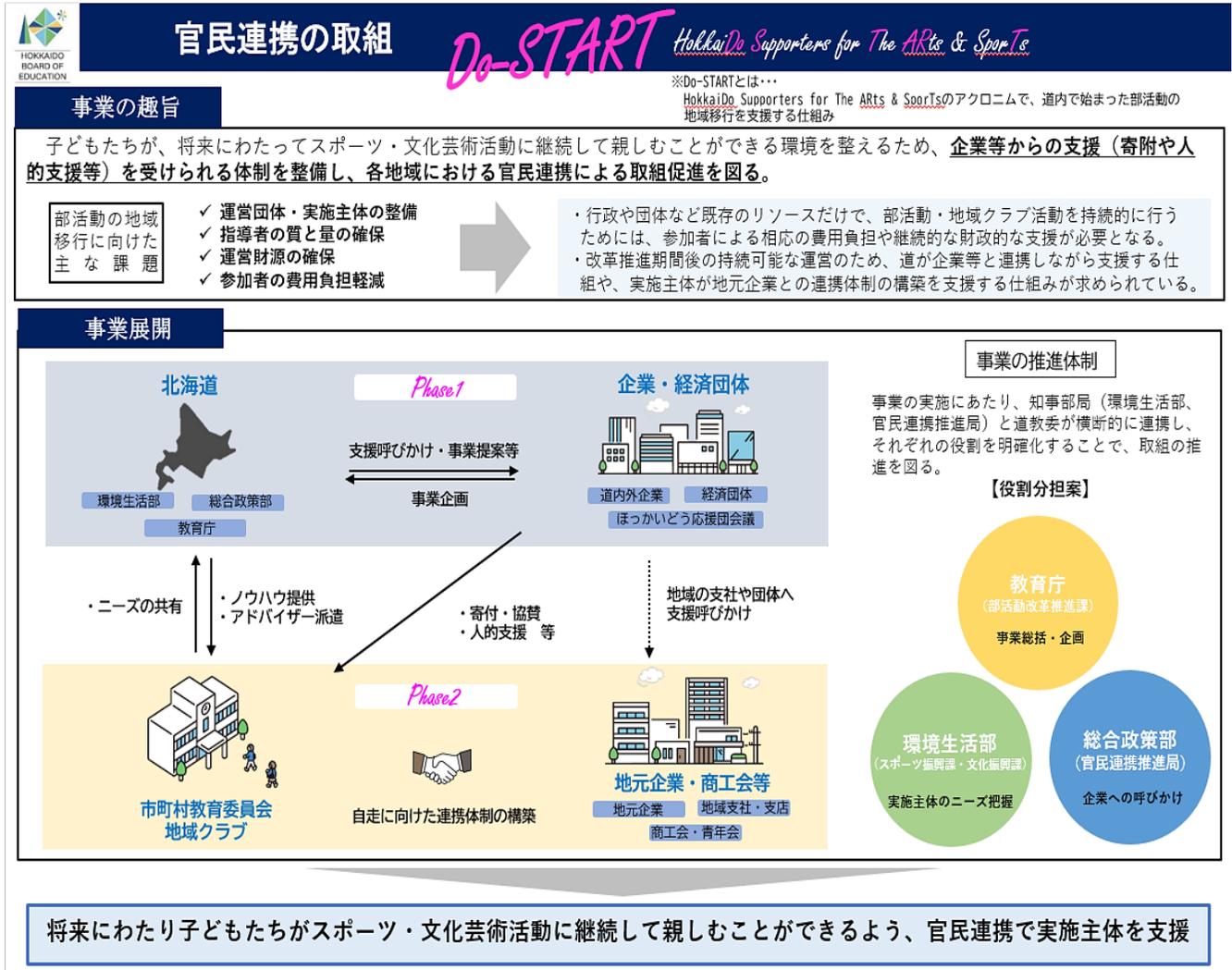


取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組の成果

- ・企業等からの支援（寄附や人的支援等）を受けられる体制を整備し、参加者の費用負担軽減等に向けた各地域における官民連携による取組の推進を図る。
- ・各地域クラブにおける人材や財源等の確保の一助とするため、民間による支援と地域クラブのニーズをマッチングさせる仕組みである「Do-START（hokkaiDo-Supporters for The Art and sporTs）構想」（以下「Do-START」という。）の具体化に向けた検討を進め、各地域クラブの財源の確保による持続的な活動に向けた支援と参加費用負担の軽減等につなげる。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

・ Do-STARTのモデルとして、胆振管内安平町（国事業の実証自治体）の安平町立早来学園（義務教育学校）において、道教委と連携協定を締結している大塚製薬(株)（医薬品はもとより、ポカリスエットなどの食料品を販売する製薬会社）の自動販売機を設置し、地域移行の受け皿となっている総合型地域スポーツクラブ（アビススポーツクラブ）に売り上げの一部を寄附するスキームを展開した。

【設置記念キックオフイベント】



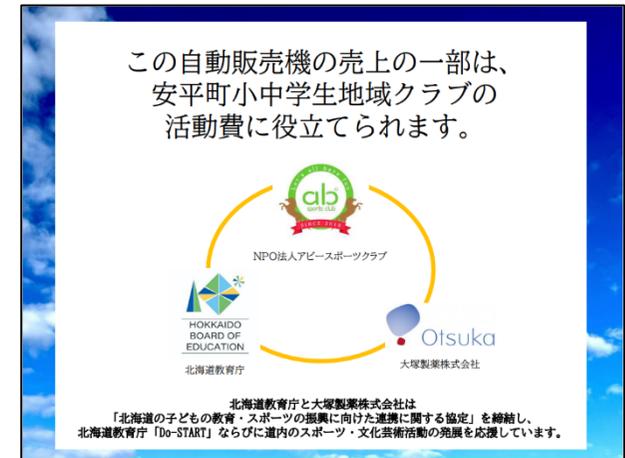
〈左から〉
 道教委、大塚製薬(株)、総合型地域SC、
 安平町長

【自動販売機】



〈参考〉
 ・道内中学校では初めての設置
 ・自動販売機は災害備蓄庫としても活用、
 有事の際には飲料等を無償提供

【自動販売機 啓発用広告】



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等③

取組の成果

・Do-STARTの展開として、後志管内余市町（国事業の実証自治体）における地域移行を支援する取組として、大塚製薬(株)が主催者となり、余市町や地域移行の受け皿となりうる地元の総合型地域スポーツクラブ、地元のスーパーマーケットの(株)ラルズ（北海道・北東北に広がる地域密着型のスーパーマーケットチェーン）と連携し、北海道日本ハムファイターズの協力による野球教室を開催するほか、地域移行や地域クラブ活動のPRを実施（費用は企業側が負担）し、今後も継続的に支援。

【プレイボールイベント】



〈左から〉
 道教委、余市町長、総合型地域SC
 (株)ラルズ、大塚製薬(株)

【日本ハムファイターズによる野球教室】



・ファイターズOB選手らによる指導
 (鶴岡慎也氏ほか2名)

【スーパーマーケットにおけるPR活動】



・配付リーフレット



・店舗での商品展開、PR

今後の課題と対応方針

- ・地域移行の課題に共感して社会貢献やビジネスチャンスと捉え、市町村や地域クラブ等に対して継続して連携・協力いただく民間企業の掘り起こしが課題。
- ・今後、地域移行の課題をオープン化し、連携・協力いただく民間企業の掘り起こしを行うとともに、市町村等とのマッチングを促進させる取組を行う。
- ・費用負担の軽減に向け、企業からの寄付等を活用した基金の創設や企業版ふるさと納税の活用等に関する先進事例を市町村に広く情報提供する。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

・部活動の地域移行は、文化・スポーツ振興やまちづくり、地域振興など多角的な視点で取り組むべき課題であり、官民連携で取り組むなどして、地域の実情に応じた持続可能な体制を構築することが重要。

・市町村の課題として「指導者の確保」「受け皿団体の確保・整備」「運営財源の確保」「生徒の移動手段の確保」等が多く上げられているが、「指導者の確保」は移行後においても継続的な課題であり、民間企業や大学等との更なる連携により、確保するための裾野の拡大に取り組むことが必要。

・日頃から地域のスポーツ活動や学校部活動に関与している関係団体等と地域移行の現状や課題、先進事例等を共有することにより、地域移行への関係団体等の主体的な関与を促すことが必要。

・地域移行を持続可能なものとするためには、地域住民の積極的な関与が不可欠であることから、地域住民が地域移行を自分事として捉え、活動への主体的な関与や応分の費用負担、生徒の送迎等について理解を高めていくことが必要。

・地域移行先となる地域クラブ活動の実施主体において、運営財源の不足は深刻な課題であり、今後の持続可能な体制構築には、民間企業等からの寄附や人的・物的支援は不可欠。民間企業等が支援の意向を示していても、地域クラブ側のニーズとのマッチングが叶わず、民間のリソースが十分に活用されていない状況が見られることから、円滑に調整を図る仕組みを構築し、個々の支援策を具体化することが重要。

●成果の評価

・事業計画書に記載した各項目の事業内容については、各項目の「2. 実証内容と成果」「取組の成果」に記載のとおり、おおむね実施できており、部活動の地域移行の課題に対する解決策の一助となるよう、一定の成果があったものと考えている。

・また、事業計画書の「3. 達成目標と達成状況の検証方法」に記載した達成目標についても達成できている。

【達成目標】

市町村における休日の地域スポーツクラブ活動の実施割合 40%以上

※試行的な実施を含む

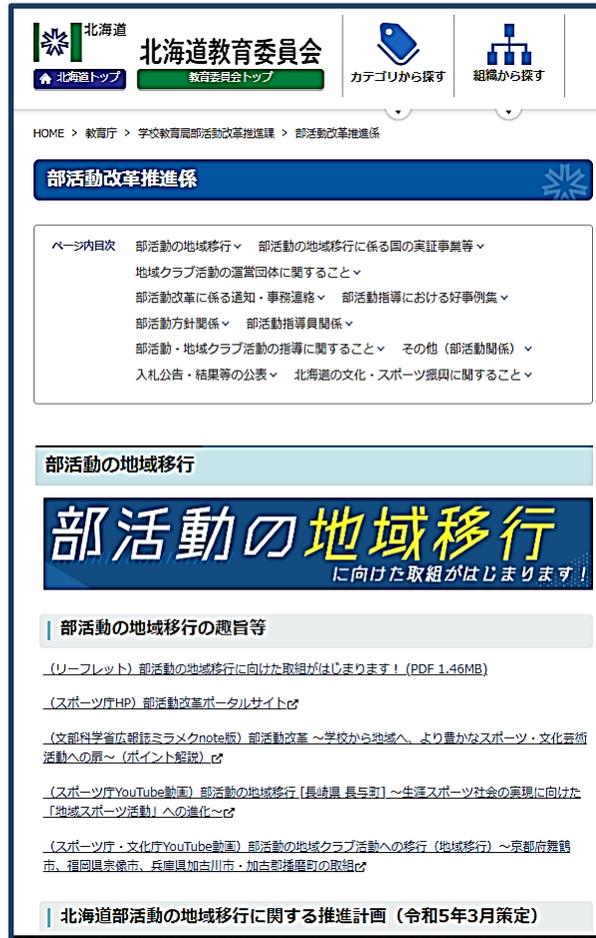
【達成状況】

42.7% (R6.12時点) ※R5.12時点26.4%

●今後に向けて

・各項目の「2. 実証内容と成果」「今後の課題と対応方針」及び左記「●総括」に記載のとおり、実証によって明らかとなった課題等を踏まえ、今後も引き続き、関係機関・関係団体、民間企業等と連携・協力し、部活動の地域移行に向けた各般の課題解決にかかる取組を継続する。

広報資料



北海道教育委員会
北海道トップ | 教育委員会トップ

HOME > 教育庁 > 学校教育局部活動改革推進課 > 部活動改革推進係

部活動改革推進係

ページ目次
部活動の地域移行 | 部活動の地域移行に係る国の実証事業等 | 地域クラブ活動の運営団体に関すること | 部活動改革に係る通知・事務連絡 | 部活動指導における好事例集 | 部活動方針関係 | 部活動指導員関係 | 部活動・地域クラブ活動の指導に関すること | その他(部活動関係) | 入札公告・結果等の公表 | 北海道の文化・スポーツ振興に関すること

部活動の地域移行

部活動の地域移行

に向けた取組がはじまります！

部活動の地域移行の趣旨等

- (リーフレット) 部活動の地域移行に向けた取組がはじまります！ (PDF 1.46MB)
- (スポーツ庁HP) 部活動改革ポータルサイト
- (文部科学省広報誌ミラメクNote版) 部活動改革～学校から地域へ、より豊かなスポーツ・文化芸術活動への扉～ (ポイント解説)
- (スポーツ庁YouTube動画) 部活動の地域移行(長崎県 長与町)～生涯スポーツ社会の実現に向けた「地域スポーツ活動」への進化～
- (スポーツ庁・文化庁YouTube動画) 部活動の地域クラブ活動への移行(地域移行)～京都府舞鶴市、福岡県糸島市、兵庫県加古川市、加吉郡播磨町の取組

北海道部活動の地域移行に関する推進計画(令和5年3月策定)

【ホームページでの広報】
<https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gkk/bukatsudo.html>



子どもたちに豊かなスポーツ・文化芸術体験を届けるために
部活動の地域移行
 に向けた取組がはじまります！

北海道では、全国を上回る速度で進行する少子化により、地域によっては、学校単位では部活動の維持が難しくなっています。国は、公立中学校等の休日の部活動を段階的に地域へ移行する方向性を示しており、道内においても、子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に持続的に親しめる環境を整えるため、各地域で、これからの部活動の在り方を検討しています。

背景1 道内中学生の減少

道内公立中学校の生徒数は、昭和61年度(1986年度)に273,665人となりピークを迎え、その後減少傾向となり、令和4年度(2022年度)には116,587人となり、**ピークから約57.4%、157,078人減少**しています。

中学生の数は、36年間で**半分以上**に

道内公立中学校生徒数の推移(1986～2022)

年度	生徒数
昭和61年度(1986)	273,665
平成27年度	200,000
令和元年度	150,000
令和4年度	116,587

57.4%減

背景2 部活動数の減少

中学生の減少に伴い、道内の公立中学校(札幌市立を除く)の部活動数は、平成27年度(2015年度)の3,697部から令和4年度(2022年度)には3,078部となり、**7年間で約16.7%、619部減少**しています。

また、一つの学校ではチームが成り立たず、近隣の中学校との合同練習や大会への出場が増えています。

部活動数は、**7年間で約2割減**

道内公立中学校の部活動数の推移(2015～2022)

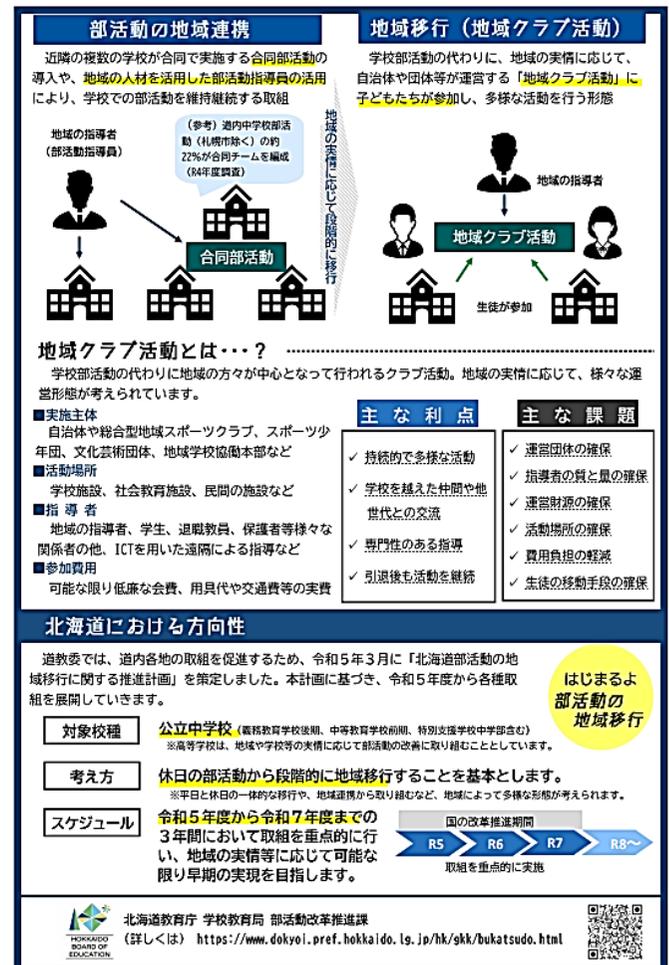
年度	部活動数
平成27年度	3,697
令和元年度	3,264
令和4年度	3,078

16.7%減

- ◇ 生徒数の大幅な減少により、学校単位では部活動が成り立たない...
- ◇ 部活動数の減少により、子どもたちがやりたい活動を諦めざるを得ない環境に...
- ◇ 教員の長時間勤務、教員不足が深刻化...

部活動の在り方を見直し、学校と地域の連携、地域で子どもたちが活動できる環境の整備等により、持続可能で豊かなスポーツ・文化芸術環境を再構築することを目指します。

【周知用リーフレット(表面)】



部活動の地域連携

近隣の複数の学校が合同で実施する**合同部活動**の導入や、**地域の人材を活用した部活動指導員の活用**により、学校での部活動を維持継続する取組

(参考) 道内中学校部活動(札幌市除く)の約22%が合同チームを編成(84年度調査)

地域の指導者(部活動指導員) | 合同部活動 | 地域の指導者(地域クラブ活動) | 生徒が参加

地域移行(地域クラブ活動)

学校部活動の代わりに、地域の実情に応じて、自治体や団体等が運営する「**地域クラブ活動**」に、子どもたちが参加し、多様な活動を行う形態

地域クラブ活動とは...?

学校部活動の代わりに地域の方々を中心となって行われるクラブ活動。地域の実情に応じて、様々な運営形態が考えられています。

実施主体	主な利点	主な課題
自治体や総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、文化芸術団体、地域学校協働本部など	✓ 持続的で多様な活動	✓ 運営団体の確保
学校施設、社会教育施設、民間の施設など	✓ 学校を越えた仲間や世代との交流	✓ 指導者の質と量の確保
指導者: 地域の指導者、学生、退職教員、保護者等様々な関係者の他、ICTを用いた遠隔による指導など	✓ 専門性のある指導	✓ 運営財源の確保
参加費用: 可能な限り低廉な会費、用具代や交通費等の実費	✓ 活動場所の確保	✓ 費用負担の軽減
	✓ 引退後も活動を継続	✓ 生徒の移動手段の確保

北海道における方向性

道教委では、道内各地の取組を促進するため、令和5年3月に「北海道部活動の地域移行に関する推進計画」を策定しました。本計画に基づき、令和5年度から各取組を展開していきます。

はじまるよ 部活動の地域移行

対象校種 公立中学校(義務教育学校後期、中等教育学校前期、特別支援学校中学部含む)
 ※高等学校は、地域や学校等の実情に応じて部活動の改善に取り組むこととしています。

考え方 休日の部活動から段階的に地域移行することを基本とします。
 ※平日と休日の一体的な移行や、地域連携から取り組むなど、地域によって多様な形態が考えられます。

スケジュール 令和5年度から令和7年度までの3年間で取組を重点的に行い、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指します。

国の改革推進期間: R5 | R6 | R7 | R8~
 取組を重点的に実施

北海道教育庁 学校教育局 部活動改革推進課
 (詳しくは) <https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gkk/bukatsudo.html>

【周知用リーフレット(裏面)】

広報資料



運動・スポーツ & 文化・芸術

ほっかいどう 部活動 地域クラブ活動 サポーターバンク

はじまるよ 部活動の 地域移行

中学生・高校生のスポーツ・文化活動に皆さんの力をお貸しください。

北海道教育委員会では、道内の公立学校で行われる「部活動」や、各地域で部活動に代わって行われる「地域クラブ活動」の指導者の候補者として登録していただける方（サポーター）を募集しています。

「スポーツや文化活動の指導経験がある方」、「競技や文化活動等の経験があり指導が可能な方」は、北海道の子どもたちのために、登録をご検討ください。

ご登録はこちらから
<https://www.harp.lg.jp/qMnlAJEU>

フォームへの入力が多い場合のみ、遠程でのHPから様式をダウンロードし、郵送又はFAXにて送信してください。

北海道教育庁 学校教育局 部活動改革推進課
 住所：〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目
 電話：011-206-6067
<https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gkk/supporterbank.html>

【サポーターバンクリーフレット（表面）】

ほっかいどう部活動/地域クラブ活動サポーターバンクとは

道内の市町村立中学校等や道立学校において、部活動指導員や外部指導者として「部活動」の指導等を行っていただける方、中学校の部活動の代わりに各地域で行われる「地域クラブ活動」の指導者として活躍いただける方を名簿に登録し、市町村教育委員会や学校、地域クラブの求めに応じて情報提供します。

学校部活動における指導者	外部指導者（外部コーチ）	地域クラブ活動指導者
<p>部活動指導員</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育法施行規則に定められた学校職員（非常勤） 校長の監督の下、顧問として部活動指導や大会引率等を行います。 報酬※が支払われます。 勤務条件は市町村や学校により異なります。 <p>※道立学校の場合：1,600円/時間</p>	<p>外部指導者（外部コーチ）</p> <ul style="list-style-type: none"> 顧問の教員とともに、技術指導等を行います（単独での指導は原則行いません。） 報酬等の有無、勤務条件等は市町村や学校により異なります。 	<p>地域クラブ活動指導者</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校部活動の代わりに地域で行われるスポーツや文化活動の指導を行います。 中学生への指導が基本ですが、多世代が参加するなど、地域によって多様な形態があります。 勤務条件は活動の実施主体となる各団体の規定に基づきます。

応募資格

- 道内の中学校等や道立学校における部活動のほか、地域クラブ活動での指導等が可能な方（登録の段階では、教員免許状や競技等の指導資格などの要件は設けておりません。）
- 地方公務員法（昭和25年法律第261号）第16条及び学校教育法（昭和22年法律第26号）第9条の欠格事項に該当するなど、社会通念に照らし、指導者として不適切と認められる方は登録できません。

※ 公立学校教員が、地域クラブ活動の指導者として任用されるためには、所属する学校の設置者である教育委員会から兼職兼業の許可を得る必要があります。

留意事項

- 登録情報については、サポーターを選手、任用する目的のため、北海道教育委員会のほか、関係市町村教育委員会や学校、地域クラブで共有します。目的外での使用は一切いたしません。
- 登録者が必ず任用されるわけではありません。
- 本サポーターバンクに関するより詳しい情報は、下記のホームページを御覧ください。

<https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gkk/supporterbank.html>



部活動の地域移行とは・・・

学校の部活動は、子どもたちにとって、スポーツや文化芸術等の活動機会であるとともに、貴重な人間形成の機会ですが、少子化による生徒数の減少に伴い、活動に必要な部員数を維持できないなど、全国的に部活動の継続が難しくなっています。

このような状況を受け、国は令和5年度から公立中学校の休日の部活動を段階的に地域の活動（地域クラブ活動）へ移行する方針を示しており、北海道においても各地域で検討が進められています。

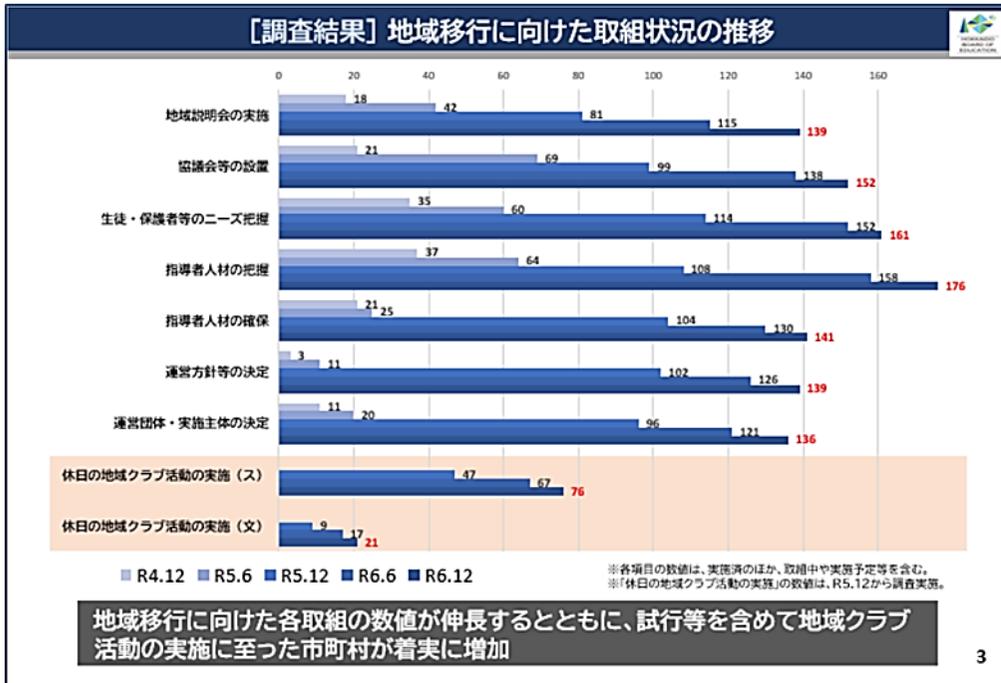
地域クラブ活動の実施主体は、行政のほか、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ・文化団体、民間事業者、大学、クラブチーム、地域学校協働本部等多様な主体が考えられ、地域の実情に応じて体制が整備されます。



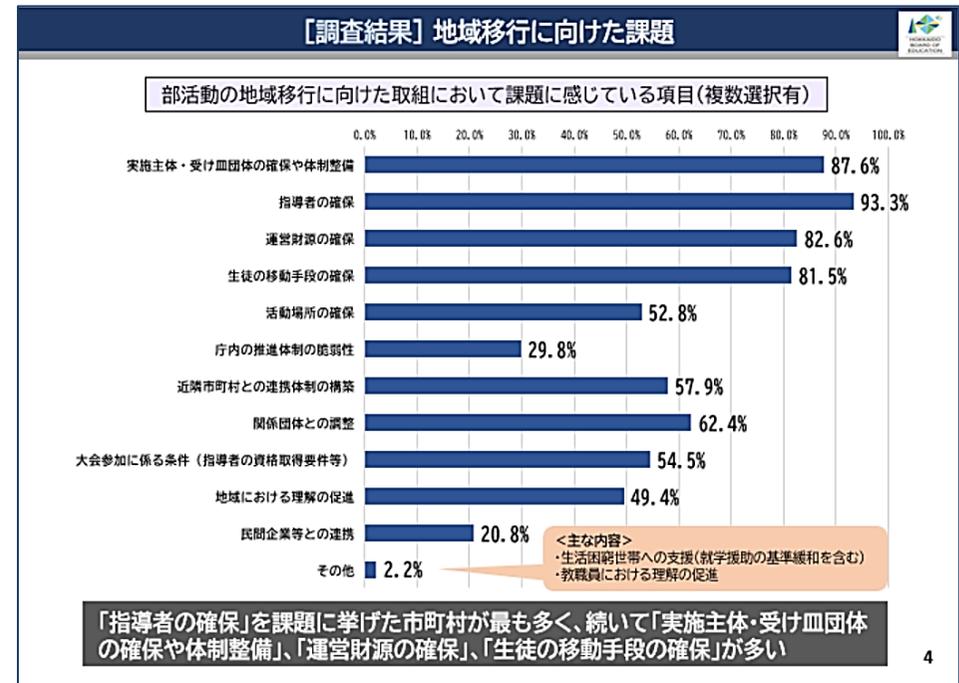
【サポーターバンクリーフレット（裏面）】

2.実証内容と成果③

参考資料（直近の部活動・地域クラブ活動関係者会議で使用した資料抜粋）



【第2回会議資料①】



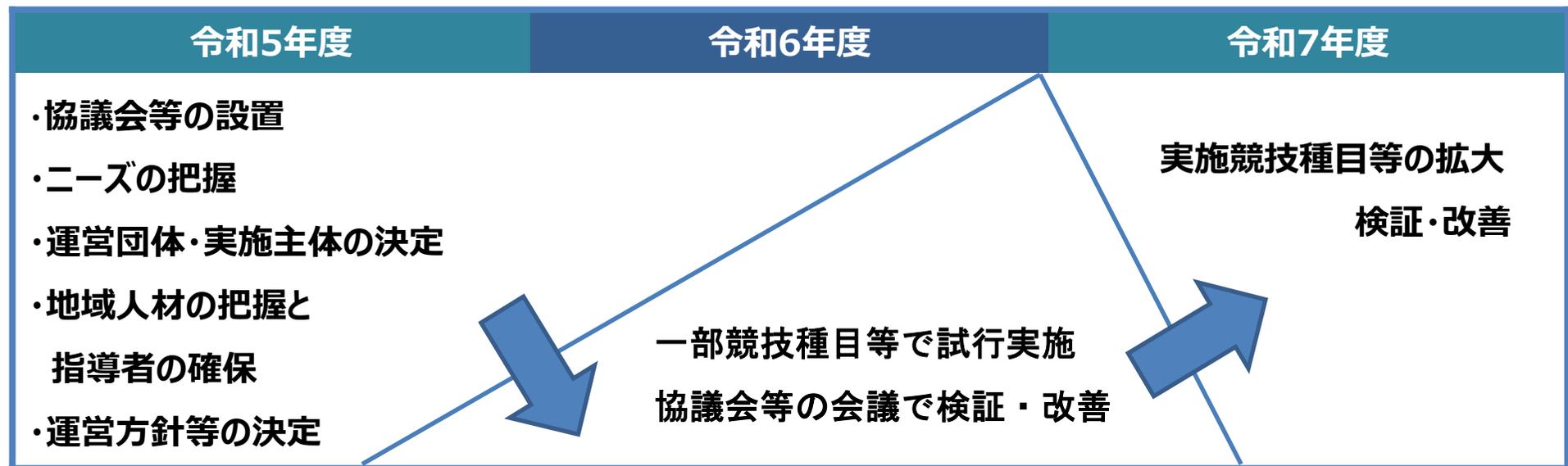
【第2回会議資料②】

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

- 市町村や地域においては、当該地域の実情等を加味し、具体的な取組やスケジュール等を定めた推進計画等を策定するなどした上で、関係者間で協議。
- 進捗状況等の点検を適宜行い、必要に応じてスケジュールを見直しながら、着実に進めていく。

《例》



※ 検討の段階から随時、関係団体、学校、保護者、地域住民への情報発信

「北海道部活動の地域移行に関する推進計画」第4章2 より抜粋



令和6年度

文化庁活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道蘭越町

自治体名：北海道蘭越町

担当課名：教育委員会

電話番号：0136-55-7826

1.自治体の基本情報



基本情報

面積	449.78 km ²
人口	4,493人
公立中学校数	1校
公立中学校生徒数	95人
部活動数	7部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【現状】

蘭越町唯一の中学校である蘭越中学校では、6つの運動部と1つの文化部があり、吹奏楽部は唯一の文化部である。全校生徒95人のうち吹奏楽部に所属する生徒が14人（15%）で人気のある部活動である。現在は、顧問の教諭のほか、教員退職者である部活動指導員がもっぱら指導に当たっており、学校行事や町の行事などでの演奏を目標に、活動に取り組んでいる。学校のスケジュールにもよるが、現状、平日は木曜日を除く毎日2時間と土曜日2時間の練習時間を確保している。

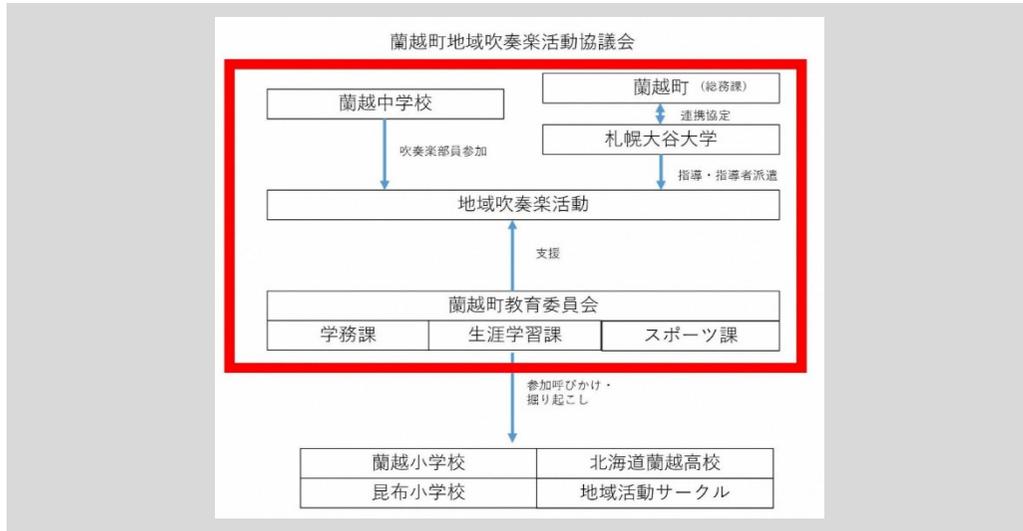
【課題】

本町は、北海道の主要都市である札幌市から車で2時間半、唯一の公共交通機関であるJRで3時間半の位置にあり、人口約4,400人の過疎地域に指定された農村地帯である。少子化及び過疎化で中学生が減少する中、部活動を行う生徒も減少し、十分な活動ができないほか、教員の働き方改革を推進している中で、地域にも十分な指導者がいない。また、地域の小学校及び北海道立の高等学校にも吹奏楽部が存在しない。部員が少ないことから、パート（楽器）ごとの技術、奏法の指導が上級生から下級生に行うことができず、顧問や指導員が苦慮している。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

・事業の統括

【学務課】

- ・学校間の連絡調整、学校施設・用品等の使用管理、予算、支出、事故対応

【生涯学習課】

- ・町民団体及び生涯学習サークルとの連絡調整

【スポーツ課】

- ・他の部活動地域移行に向けた調査・研究、意見調整

◎首長部局

- ・連携協定大学との調整

年間の事業スケジュール

令和6年	5月	協議会開催
令和6年	6月	打合せ会議 大学生リモート指導
令和6年	7月	中学校・吹奏楽クラブ合同演奏 (蘭越せせらぎまつり) 大学生リモート指導
令和6年	8月	中学校・吹奏楽クラブ合同演奏 (一灯園ふれあい祭り)
令和6年	9月	大学生リモート指導
令和6年	10月	打合せ会議 中学校・吹奏楽クラブ合同演奏 (きらら共和国独立建国祭) 大学生対面指導・合同演奏会

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（1部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	15人	全体の運営スタッフ数	0人

②クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
蘭越町地域吹奏楽クラブ	地域移行・市区町村運営型	吹奏楽	週1回	9~12時	中1 5人 中2 2人 中3 7人 一般 3人	5月~10月	蘭越中学校	15人	0人 (内、兼務0人)	なし	文化祭：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

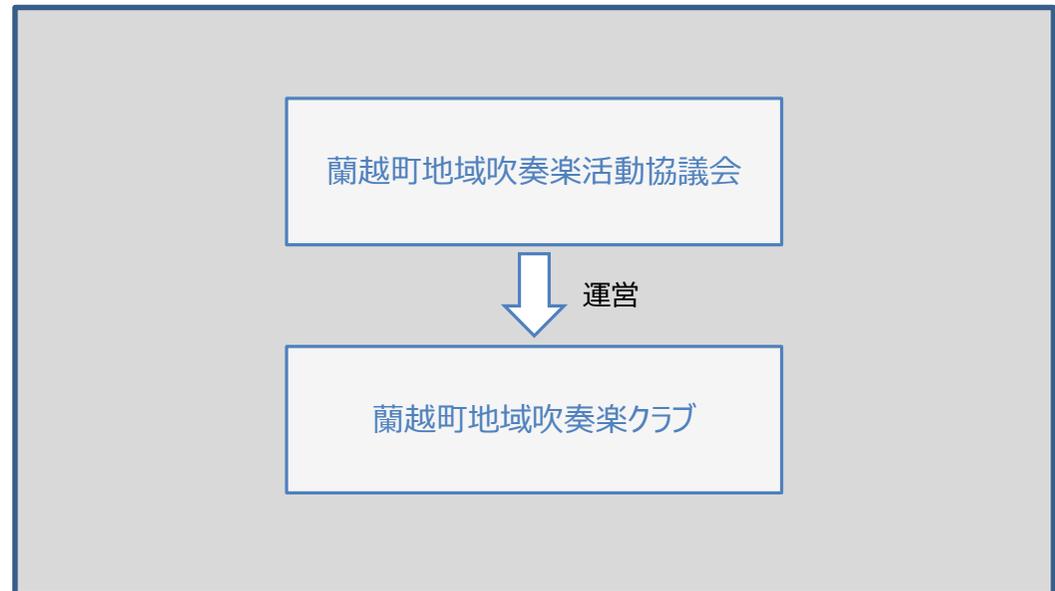
- 7月21日 中学校・吹奏クラブ合同演奏（蘭越せせらぎまつり）
- 8月31日 中学校・吹奏クラブ合同演奏（一灯園ふれあい祭り）
- 10月6日 中学校・吹奏クラブ合同演奏（きらら共和国独立建国祭）
- 10月14日 大学生対面指導・合同演奏会

主な取組例

●蘭越町地域吹奏楽クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	吹奏楽
運営団体名	蘭越町地域吹奏楽活動協議会
期間と日数	吹奏楽：5月1日～10月26日 月3回程度
指導者の主な属性	提携大学教授、学生（12人） 部活動指導員、部活動顧問（3人）
活動場所	蘭越中学校音楽室
主な移動手段	スクールバス、現地集合
1人あたりの参加会費等（年額）	なし
1人あたりの保険料	全国町村会総合賠償保険 （保護者負担なし、町費で一括負担）

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者：配置なし
- 主任指導者：配置なし
- 運営補助者：配置なし

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

教育委員会が中心となり、関係団体と連携、調整し、活動組織を設立する。

活動が継続して自立していけるよう、助言と資金手当てを行う。

取組の成果

教育委員会が中心となって、関係団体と調整の上、協議会を設置し、活動に対して助言を行った。

また、町が必要な予算を措置し、資金手当てを行ったことで、地域クラブの活動に必要な指導者として、部活動指導員や大学教授、大学生に依頼し、きめ細やかな質の高い指導を継続的に提供することができ、構成員の楽器奏法の技術向上や吹奏楽の楽しさを提供することができた。

今後の課題と対応方針

教育委員会が中心となることで、継続性は担保されるが、人的労力を相当に要することが課題のため、今後は教育委員会に代わって地域クラブの運営を担う関係団体等の育成や必要に応じ、コーディネーターの配置についても検討を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保 / ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項（イ）

専門的な知識や技術もある大学の協力を受ける。

また、日常の活動や生徒指導、問題発生時の対応に当たるため、現在の部活動指導員の先生に協力をお願いし、活動を行う。

ICTの取扱いについても、大きな課題が確認されたので、その環境づくりに人材を投入できるか、確認を行う。

取組の成果（イ）

地域連携協定を結んでいる札幌大谷大学に協力いただき、主にICTを活用して音楽学科の教授、大学生の指導を受けることで、楽器ごとの専門的知識を得ることができた。

また、地元に住む楽団員にも指導していただくことで、練習日を確保した。

取組事項（ウ）

教育委員会が中心となることで、学校だけでなく生涯学習担当や各種団体との連携調整により、円滑な運営に向けて生徒の参加に係る学校との調整や指導者の派遣等に係る大学との調整を教育委員会が総合的に行う。

取組の成果（ウ）

教育委員会が調整等を行ったことで、調整方法や運営方法もスムーズに整った。

今後の課題と対応方針

ICTを活用するため、音楽学科の教授、大学生からの指導が限定的であるのが課題であるが、指導を受ける機会としては貴重なため、今後も地域連携協定に基づき大学に協力を要請する。

教育委員会が中心となることで、継続性は担保されるが、人的労力を相当に要することが課題のため、教育委員会に代わって運営を担う団体の育成等を検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

実現可能性を高め、活動団体の指導を補うため、音楽学科の教授や学生を活用し、リモートによる指導を受ける。

発表会（町芸能文化祭出演、イベント参加）など目標設定をし、町民の多くに活動について関心を持ってもらう。

地元以外の大学生との交流により、情操面での教育的効果も期待できる。

世代間の交流を推進するため、町内全小中学校及び道立高校の児童生徒、町民を対象とする。

活動の詳細			
参加人数	17人	指導者数	15人（うち教授1人、大学生11人）
属性	吹奏楽		
具体的な内容	月3回程度の土曜日の練習と年3回のICTを活用した音楽学科の教授及び大学生からの質の高い楽器ごとの指導 中学校吹奏楽部と合同で町芸能文化祭や町イベントに参加		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学生が分かりやすく教えてくれました。 ● 演奏を精いっぱい頑張りました。 ● 演奏会を見に来てくれた人に感謝です。 ● 吹奏楽をやって初めての演奏なので、結構緊張しました。 		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 吹奏楽クラブの練習の日は楽しそうに出かけてます。 ● 一生懸命練習に取り組んでくれるので、教え甲斐があります。 ● 初めて演奏する曲の練習が大変・・・でも大好きな曲なので頑張ります。 ● 上手な演奏でびっくりしました。いっぱい練習してるんでしょう。 		
運営経費	委託料 400,000円 町負担 98,524円		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

演奏会にはたくさんの町民に鑑賞していただくなど、吹奏楽クラブの存在を知ってもらうことができた。

また、演奏会開催を目標に札幌市内の大学生から指導を受けながら練習を重ね、本番を迎えることで、子どもたちの音楽以外の面でも前向きな姿勢を目にするこも増えたと、中学校の教員からも子どもの成長に関して高い評価を受けた。

世代間の交流に関しては、吹奏楽をやりたいという潜在的な町民も参加し、多世代との交流により、中学生に対して音楽指導や情操教育に資する場面があったほか、評判を聞き遠方から参加した方もいた。

また、地域クラブが参加したイベントや演奏会において、興味・関心を示す方もおり、構成員の多数を占める中学生にとっては、普段あまり関わることのない新たな人間関係の構築が図られ、中学生の社会性を育むことにつながった。

今後の課題と対応方針

吹奏楽クラブの取組内容については、指導者や保護者からも高い評価を得ており、中学生や楽団員からも好評であるため、次年度以降も継続して内容の充実を図りたい。

演奏会でたくさんの人に鑑賞してもらうことで、楽団員のモチベーションの向上にもつながるが、高齢化や過疎化が進行している中、現行どおりでは集客の増加は見込めないため、今後は町外へのイベント参加等も検討を行う必要がある。

世代間の交流を推進するため、今後も町内全小中学校及び道立高校の児童生徒、町民を対象とする。

将来的には近隣自治体も巻き込み、地域クラブの広域的な取組みも必要に応じ、検討を行いたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

参加者の使用する楽器については、中学校が保有する楽器を使用貸借する。スコアについては、自己負担。町内の子どもたちについてはGIGAタブレット、学校WiFi、公共WiFiの使用を認める。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

練習場所や使用する楽器は中学校のものを使用し、GIGAタブレット、学校WiFi及び公共WiFiの使用を認めており、参加者の負担が少なくなるよう、配慮している。

■ランニングコストの分析

指導者への諸謝金が大部分を占めているが、参加者も少ないため、現在、参加費用の負担は求めているが、いずれは応分の負担を検討する。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

クラブ活動の運営や指導者配置等に必要なコストを検証し、クラブが持続的に活動していくための受益者負担額の設定について、試算も含めて検討を行う。

収支バランス

クラブ活動経費について、受益者負担と公的資金が応分な負担となるよう、収支構造の検討を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

スコアの購入等一部の自己負担があったが、平日の部活動で費用を負担しているため、本事業において追加費用を求めなかった。
学校が保有している楽器やICT設備を活用したため、指導者報酬以外に要した費用はほぼなかった。

今後の課題と対応方針

スコアの購入等一部の自己負担のほかには参加費用を求めなかったため、生徒や楽団員からは好評だった。

現在、中学校の吹奏楽部の楽器を使用して練習、活動を行っているが、楽器の更新やクラブ活動において破損した場合の修理費用等について、費用負担をどうするか検討を行っていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

蘭越中学校を使用する。

取組の成果

生徒や楽団員また楽器を移動する負担を考え、中学校の理解を得た上で、中学校の音楽室を練習場所に定めた。
学校で練習するに当たり、鍵の管理を教育委員会で行った。

今後の課題と対応方針

練習場所を中学校としたことで、利便性がよく生徒や楽団員からは好評だった。

中学校を練習場所とすることで、練習時における楽器の運搬が不要となり、鍵やICT機器を教育委員会が一括管理したことで、中学校の開閉錠や機器の設定・調整も滞りなく実施できたため、次年度以降も中学校を練習場所に選定したい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：**その他の取組**



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

指導者の属性や配置の工夫

- ・指導者の属性
中学校部活動の顧問や部活動指導員
- ・配置の工夫
特に配置は工夫していないが、中学校部活動の顧問や部活動指導員が率先して指導者として登録した。

取組の成果

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

指導員を中学校部活動の顧問や部活動指導員が兼ねることで、中学生へのクラブでの指導や連絡調整等を円滑に行うことができた。

今後の課題と対応方針

その他の取組についても今後検討を行うが、指導者として中学校部活動の顧問や部活動支援員の協力が得られなければ、クラブの円滑な活動は困難なため、現在の指導者に代わる指導者の養成が課題である。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

楽団員17人（中学生14人、地元住民等3人）で中学生だけではなく、大人も含めたメンバーで土曜日に練習し、うち3日はICTを活用して大医学の音楽学科の教授や学生から楽器ごとの細かい指導を受けることができた。

地方の小さな中学校の限られた人材の中、子どもたちが吹奏楽を楽しめる環境を整備することで、豊かな文化活動を行い、高度な芸術に触れる機会をつくることで、子どもたちの充実した活動を保障し、地方に住むことの劣等感を払拭し、多くの人からの評価を得る経験を積む機会を提供することができた。

●成果の評価

子どもたちは勿論、保護者や中学校の教員、地域住民が吹奏楽クラブに着目し、子どもたちの音楽活動の自信につながった。

また、後進の育成や新入生の勧誘機会のきっかけにもつながった。

さらに、中学校部活動の顧問や部活動指導員にとっても自身が指導できない楽器の取扱いを地域の楽団員やICTの活用により子どもたちに指導されたことで、時間的、精神的な負担の軽減が図られた。

●今後に向けて

地方の小規模校においても充実した吹奏楽活動を子どもたちに体験させてあげたいという趣旨で令和5年度に引き続き実証事業を行い、中学校、地域、子どもたちとその保護者、連携大学の理解をいただき、高い評価を得ている。

今後の地域移行に向けて継続的な活動ができる素養を子どもたちそれぞれに身に付けさせる環境を構築することで、教員の手を借りなくても、地域の楽団員や大学生などによりたくさん子どもたちが充実した活動ができるよう進めていきたい。

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

アンケートは未実施だが、練習後や出会において、指導者及び保護者よりヒアリングを実施。

●参加者の声

指導者

練習内容の反省と進め方、成果・達成度、子どもの様子について、おおむね好評（毎回、練習後に聴取）

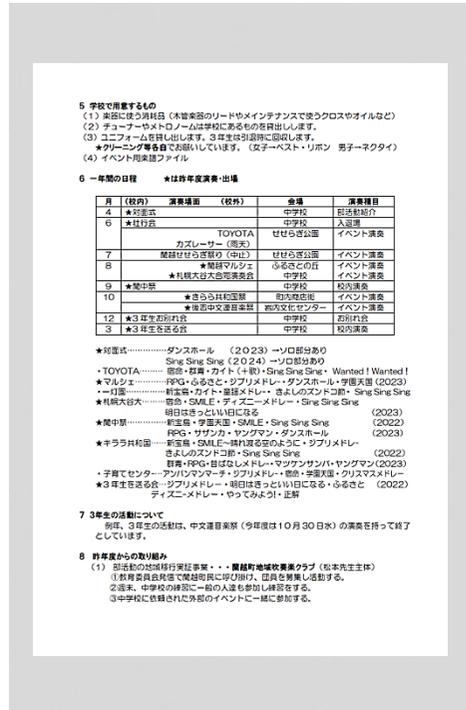
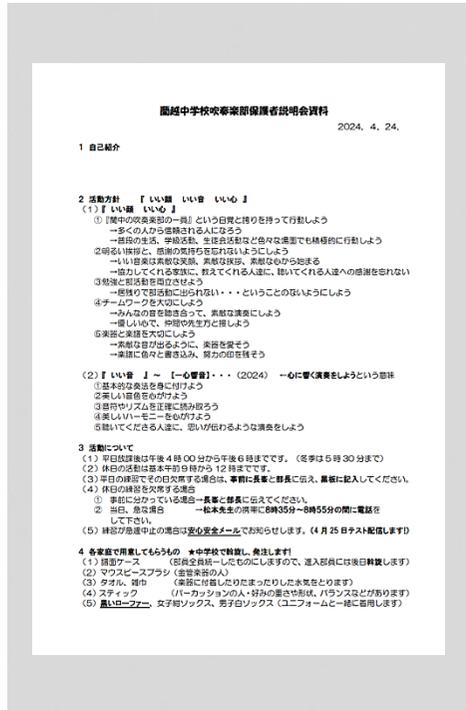
保護者

子どもの反応、意欲、家庭での理解について、高い評価と継続実施について要望が多い（都度、出会で個別に聴取）

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

令和6年4月24日に開催された蘭越中学校吹奏楽部活動保護者説明会において、蘭越町吹奏楽クラブの説明と参加啓発を行った。



【生徒への参加啓発案内】

出典：蘭越中学校吹奏楽部活動保護者説明会資料

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【10月14日 大学生対面指導】



【10月14日 合同演奏会リハーサル】



【10月14日 合同演奏会】



【10月14日 合同演奏会】

地域文化クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

蘭越町教育委員会
札幌大谷大学芸術学部
蘭越中学校

●経過

地方においても質の高い音楽の指導が受けられるよう、吹奏楽への興味関心が深まり、中学校の部活動の枠組みを超えて、多くの世代が参加できるよう、蘭越町地域吹奏楽活動協議会を設立し、吹奏楽クラブ活動の実施に向けて検討を始めた。

●実施にあたって生じた課題

吹奏楽部で活動する中学生も減少し、十分な活動ができないほか、地域の小学校や高校にも吹奏楽部が存在せず、生涯学習サークルで数名が活動している中で、吹奏楽クラブを設立しても、構成員が満足できる活動が展開できるか課題であった。

●実施内容、工夫した点 等

教育委員会が中心となって、各種団体と連絡調整を行い、吹奏楽クラブの円滑な運営に努めた。

指導員に中学校の吹奏楽部の部活動指導員を充てたほか、町が包括連携協定を結んでいる札幌大谷大学の協力を得て、質の高い音楽の指導をICTを活用して受けられるよう調整を行った。

生徒や楽団員、楽器移動の負担を軽減するため、練習場所を中学校で行うこととした。

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

地域における休日の文化部活動の段階的な文化クラブ活動への意向の着実な実施に向けて、文化芸術環境の整備方策や自治体・学校・保護者・関係団体などの関係者の役割分担の整理を図り、地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップの作成を検討する。



令和6年度

文化庁活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道登別市

自治体名：北海道登別市

担当課名：登別市教育委員会教育部社会教育グループ

電話番号：0143-88-1129

1.自治体の基本情報



基本情報

面積	212.21 km ²
人口	43,615人
公立中学校数	6校
公立中学校生徒数	1,079人
部活動数	9部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

生徒数や教員数の減少により、部活動の種類が減少している一方で、生徒のニーズは多様化しており、希望するスポーツ活動に取り組むことができない生徒が増加している。

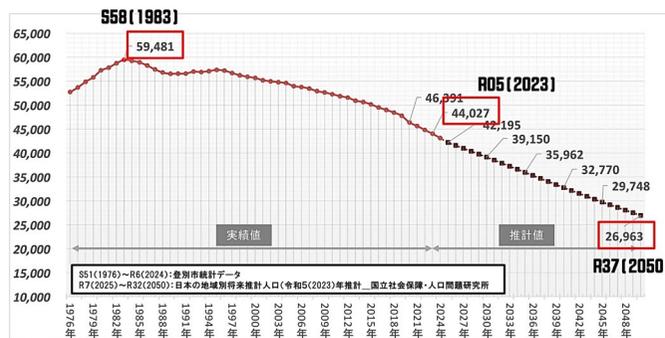
登別市においては、令和4年に児童生徒とその保護者を対象に実施したアンケートにおいても、部活動の地域移行に賛成という回答が75%を超えるなど、早期の地域移行が求められている状況にある。

加えて、今後も人口減少・少子高齢化の進展が見込まれる中、地域スポーツにおいても、団体活動の縮小や停滞が進んでいることから、まずは

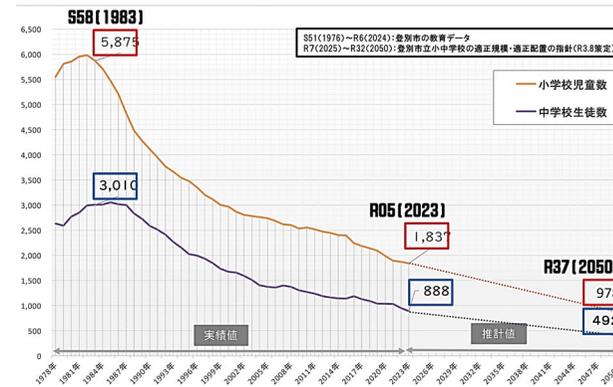
中学生の活動の場を確保を進め、将来的には子どもから大人まで、生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境の構築を図り、地域全体で本市のスポーツを支える「地域とともにあるスポーツの振興」を目指す必要がある。

そこで、登別市においては、これまで本市の文化・スポーツの振興に取り組んできた「一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団」が新たな地域クラブ「登別市地域クラブ」を立ち上げ、中学生にとって望ましいスポーツ環境を整え、市教育委員会や他のスポーツ関係団体がその取組を支援していくこととした。

登別市における総人口の推移と将来人口



登別市における児童生徒数の推移

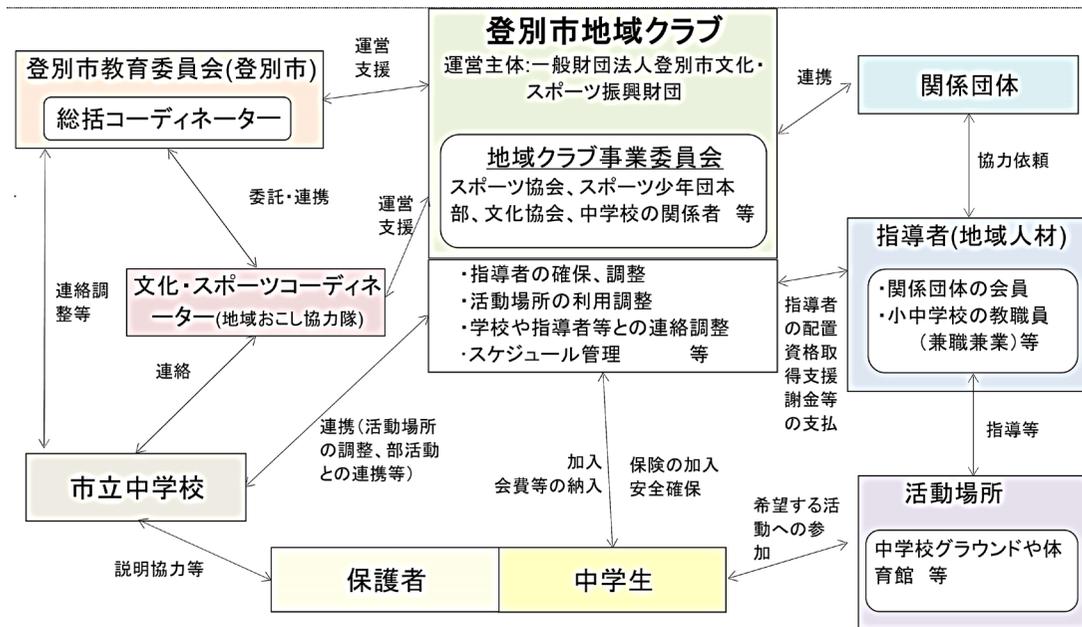


2.実証内容と成果



運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



◎教育委員会

- ・新たな地域クラブ活動の推進や持続可能なスポーツの振興等に向けた支援
- ・平日の移動手段確保に向けた貸切バスの運行

◎首長部局

- ・財源や人員の確保

年間の事業スケジュール

- | | |
|---------|---|
| 令和6年4月 | <ul style="list-style-type: none"> ・登別市地域クラブの体験会実施開始（合唱） ・新1年生に向けた登別市地域クラブの周知 ・平日の移動手段確保に向けた貸切バスの運行テスト |
| 令和6年5月 | <ul style="list-style-type: none"> ・登別市地域クラブの活動開始（合唱） ・平日の移動手段確保に向けた貸切バスの運行 |
| 令和6年10月 | 市内各中学校の新生保護者説明会において、登別市地域クラブの周知 |
| 令和6年12月 | 新1年生を対象とした見学（体験）会の開催 |
| 令和7年3月 | 会員に対し、地域クラブの継続意向確認 |

2.実証内容と成果



地域文化クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1クラブ
全体の指導者数	3人	全体の運営スタッフ数	1人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは 末尾に（新）を 付ける	実施 回数	実施時間帯	参加者 （学年 別）	実施期間	活動場所	指導者 数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加 方法
登別市 地域クラブ	一般財団 法人登別 市文化・ス ポーツ振興 財団	合唱	週2回	平日 16時30分 ～ 18時30分	1年3名 2年0名 3年1名	令和6年5月 ～ 令和7年3月	市民会館	3人	1人 （内、兼務1人）	月会費 1000円	地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 令和6年4月に、中学1・2・3年生を対象とした体験会を実施
- 令和7年3月に、小学6年生や中学1・2年生を対象とした体験会を実施

2.実証内容と成果

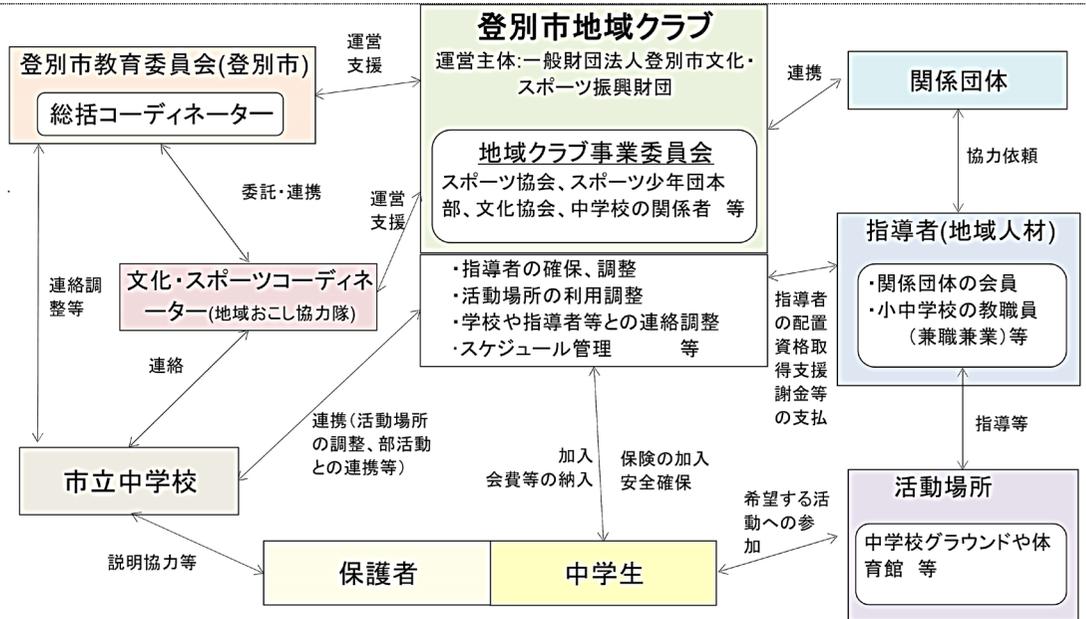


主な取組例

●登別市地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	合唱、(サッカー、野球、バレーボール、ソフトテニス、卓球)
運営団体名	一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団
期間と日数	○週2回程度(平日1日) 合唱: 5月1日～3月31日
指導者の主な属性	・中学校教職員(兼職兼業) ・地域の指導者等
活動場所	市民会館
主な移動手段	平日: 学校間を巡回するバス
1人あたりの参加会費等(年額)	12,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり: 800円/年 指導者1人あたり: 1,850円/年

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団(運営主体)
役割: 指導者の確保、調整等、会費等の徴収、指導者への謝金支払い等
- 指導者(有償ボランティア)
役割: 活動計画の策定や技術指導、大会の引率等
- 市教育委員会(総括コーディネーター)
役割: 運営に対する補助、新たに活動を開始する種目への調整等

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

元中学校校長を総括コーディネーターとして市教育委員会に配置し、新たな地域クラブの運営主体となる一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団と連携して、運営体制の整備や人材の確保等を行う。

また、同財団と中学校やスポーツ・文化芸術団体等との連絡調整や指導助言を行うなど、円滑なクラブ運営に向けた支援等を行う。

取組の成果

登別市においては、市内のスポーツ関係団体等の代表者で構成する「地域スポーツのあり方検討委員会」において、文化活動も含めた新たな地域クラブを運営することが望ましいとされた一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団が令和5年度に「登別市地域クラブ」を設立し、一部の競技について休日の活動を開始した。

まずは休日の部活動を令和7年度末までに全て移行することを目標とし、平日の活動についても準備が整ったものから活動を開始することとしており、令和6年度には、新たな種目の活動スタートに加え、平日も含めた活動の開始を予定している。そのためにも、中学校をはじめとしたさまざまな団体等との連絡調整や運営に伴う指導助言を行う総括コーディネーターの配置が必要不可欠であった。

本市においては、総括コーディネーターに加え、独自事業として、地域おこし協力隊として「文化・スポーツ推進コーディネーター」を配置したほか、地域クラブ活動推進主幹を市教育委員会に配置し、市立中学校5校の校長と定期的に打ち合わせの場を設け、各取組の進捗や新たに発生した課題などの情報を共有するなどして、登別市地域クラブの円滑な運営に努めた。このことにより、文化活動としては1種の活動を開始し、吹奏楽などの活動開始に向けたモデル構築を図るなど、地域展開の推進が図られた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

運営団体である一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団との打ち合わせにおいて、全国における他自治体の事例やこれまでの知見を踏まえながら、本市に望ましい地域展開の形を提案したほか、中学校や教職員との橋渡し役となり、地域展開に寄与した。

今後の課題と対応方針

元中学校校長の総括コーディネーターを引き続き配置し、登別市地域クラブにおける活動内容の幅を広げ、さらなる地域展開を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

登別市文化協会、小中学校などの関係団体と連携し、地域から広く募集することなどにより、指導者の確保を図る。

登録者属性	種目	資格有無
・中学校教職員 (兼職兼業) ・地域の指導者	・合唱	・なし(経験あり)

取組の成果

当初においては、登別市文化協会など、文化関係団体からの指導者確保を図ったが、個人への教室などを開講しており、地域指導者を担うことは難しかった。現状においては、さまざまな経緯で、協力に至った方の協力により、地域指導者を確保できている状況だが、持続可能な地域の文化振興を図るため、生涯を通じた活動の場を確保する必要性を市内の文化関係団体と共有し、連携して指導者確保及び育成に取り組む必要がある。

現在、地域で活動する指導者は、すでに何らかの活動に関わっていることから、地域クラブの指導者の確保にあたっては、新たな人材の掘り起こしが必要となる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

登別市地域クラブを運営する一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団において、地域クラブ事業の運営に際し、市内の文化団体や中学校の関係者等が参画する事業委員会を設置し、連携した体制を構築する。

また、「文化・スポーツ推進コーディネーター」（地域おこし協力隊）を配置し、新たな地域クラブの運営支援と関係団体間の連携強化、地域のスポーツ・文化芸術の振興に向けた新たな事業の企画・実施などを行う。

取組の成果

本市においては、市内のスポーツ関係団体等の関係者で構成する「地域スポーツのあり方検討委員会」を設置し、団体間の連携を図りながら令和2年度から中学校部活動の地域移行を含めた検討を行ってきた。

各団体においては、会員数等の減少や担い手不足などの課題を抱えていることもあり、同検討会議において、今後もさらなる連携強化を図る必要があると認識を一つにしており、同検討会議が令和4年12月にまとめた提言書においては、地域クラブの運営を担うとともに、総合体育館や市民会館などの社会教育施設の指定管理も担っている一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団が中心となって、文化も含めた、世代や団体の垣根をこえた文化・スポーツに携わることができる環境づくりを取り組むべきとされた。

これらを踏まえ、地域クラブの事業委員会にも、関係団体が参画し、地域クラブ活動を含めた地域の文化活動の推進に向けて、目標を一つに取り組んでいる。

今後の課題と対応方針

中学校部活動の地域展開を含めた本改革は、さまざまな団体に関わり、非常に大きな取組となっている。そのため、中長期的な視点をもちながら、時間をかけて、取り組む必要がある。現状、登別市文化・スポーツ振興財団が運営する地域クラブ活動は、年々、活動の幅を広げていることから、引き続き取り組むとともに、将来的には地域クラブ活動をベースとした多世代、他団体にまたがる活動への展開を目指す。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：**面的・広域的な取組**

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

登別市地域クラブにおいて、活動場所への移動は、原則各自としているものの、学校がある平日については、放課後の限られた時間での活動となっており、放課後に速やかに活動場所へ移動しなければならない。

しかし、登別市においては、中学校間の距離は最大で約20kmあるほか、公共交通機関の便数は少なく、各自で移動することが困難となっているため、移動手段の確保が大きな課題となっている。

そこで、登別市教育委員会において、平日の活動日に、学校間を巡回する貸切バスを運行し、平日における移動手段の確保を図る。

取組の成果

バス運行経路を確定させるため、年度当初は個別発注で週ごとにコースや停車場などを変更し、バスを運行。6月24日より委託契約を結び、貸切バスを運行した。

6月24日から2月28日までに、85回運行し、累計3,289人が利用した。

現状、平日活動を行っている種目については、活動を継続していくには、バス運行が必須な状況にある。

巡回バスの概要

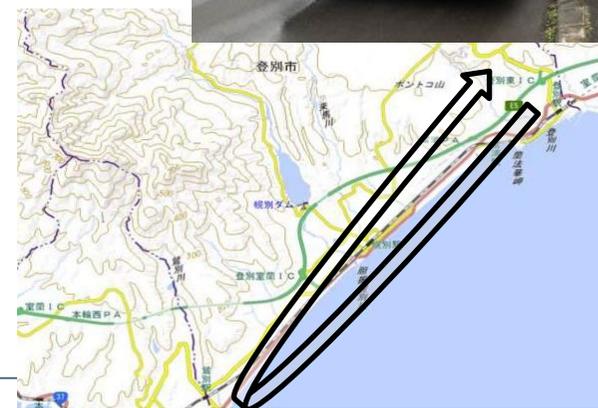
運行日：火・木・金曜日（固定）
（祝日や長期休業期間を除く）

※地域クラブの活動は、火・木・金曜日に限定

運行会社：（株）中田商会

往 路：市内5つの中学校（付近）を巡回し、各学校の生徒は、学校間を移動

復 路：各学校を巡回するとともに、一定間隔で下車場所を設け、各自下車



今後の課題と対応方針

平日活動を行うにあたって、移動手段の確保が課題となるが、費用負担も考慮し、バス運行の実証事業を継続し、さらなる検証を図る必要がある。また、平日が増えた場合に、1台の大型バスでは乗車定員を超えてしまう可能性もあるが、バスの運転手不足などにより、増便は困難となっていることから、活動場所の調整や他の交通手段との連携なども含め、検討していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

経済状況等によって、生徒が活動に親しむ機会が失われることがないよう、可能な限り低廉な会費とするなど、支援のあり方について検討する。また、地域の企業等から賛助金を受けるとしてサポーター制度の構築を検討する。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

・ピアノ（楽器）の購入 など
 ⇒合唱については、吹奏楽と比べ、必要備品が少なく、支出を抑えることが可能

■ランニングコストの分析

・報償費（指導者への謝金）
 ・事務局の運営経費 など
 ⇒地域クラブの運営に際し、主たる経費はほぼランニングコストとなっている。そのため、受益者負担のみで賄うためには、かなり高額な負担を求める必要がある。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

令和6年度における登別市地域クラブの会員負担

○会費

平日・休日ともに活動 月1,000円

休日、平日どちらのみ 月 500円

○活動費

一律 月 500円

計) 月1,000円～1,500円

その他の経費は、登別市からの運営経費の補助等で賄う。

⇒移行期においては、費用負担の公平性の観点から、市からの補助等により、低廉な価格に設定。一方で、全ての費用を受益者負担で賄うことは、現実的ではなく、国や北海道、市町村での負担にかかる方向性が示されたのちに適正な受益者負担を決定。

収支バランス

登別市地域クラブにおける支出額（令和6年度予算額）

15,761,968円 …A

会費及び活動費の収入予定額（令和6年度予算額）

1,169,500円 …B

負担割合（B/A） ～ 7.42%

⇒受益者負担の適正化を図るとともに、支出経費の見直しなども並行して行う必要あり

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

活動内容によって活動場所が限られていることから、公共施設等の活用について検討する。

取組の成果

合唱についても、他の活動同様、中学校施設の利用を検討したものの、体育館について、学校開放事業で利用していることもあり、校舎と体育館をシャッター等で区切り、校舎に立ち入ることなく、利用可能となっているが、校舎側は区切りがなく、現状においてはセキュリティ上の課題が多く、利用することができなかった。

そのことから、登別市地域クラブを運営する一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団が指定管理者となっている市民会館の一室を利用することとした。なお、指定管理者における事業として、利用料は免除となったほか、使用する部屋を限定しないことで、他の利用に影響なく使用することができた。



今後の課題と対応方針

合唱は、使用備品が少なく、場所も防音性が比較的高い部屋1室のみを利用するため、比較的容易に活動場所を確保することができたが、吹奏楽など、他の文化活動については、複数の部屋を使用したり、楽器等の保管も必要となる場合もある。そのため、公共施設を利用することとした場

合には、他の一般利用への影響が非常に大きく、課題が多い。今後の活動内容拡充に向けて、さまざまな可能性を視野に、引き続き、活動場所の確保に向けた取組を進める。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

登別市においては、一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団が、令和5年度に「登別市地域クラブ」を設立し、地域クラブ活動を推進している。

本市では、総括コーディネーター（会計年度任用職員）や地域おこし協力隊（文化・スポーツ推進コーディネーター）を配置するとともに、同クラブ活動にかかる経費を補助金として支出するなど、支援を行い、地域展開を図ってきた。

また、令和6年度から開始した平日活動における課題解決のため、実証事業を活用し、学校間を巡回するバスを運行し、さらなる推進に努めた。

その結果、登別市地域クラブにおいては、6種（スポーツ5種、文化1種）のチーム活動を実施し、令和7年度には、新たに3種のチーム活動開始を予定している。そのほか、多様な活動に向けて、スポット活動の実施についても検討するなど、中学生にとって望ましい文化・スポーツの環境づくりが進められている。

●成果の評価

実証事業において実施した総括コーディネーターの配置と巡回バスの運行について、両事業ともに、登別市地域クラブの推進に必要なものとなった。

地域クラブ活動の推進にあたっては、これまでの学校部活動の良い所を引き継いだ上で、進めていく必要があり、学校に精通している元中学校校長が総括コーディネーターをして学校との橋渡し役となったことが、円滑なクラブ運営につながったものとする。

また、登別市においては、平日活動と休日活動の連携などから、休日の活動だけではなく、平日の活動についても可能な限り地域クラブ活動として実施していくことが望ましいと考えており、平日活動の課題となる移動手段の確保に向けて、バスを運行することで、その必要性や事業内容、経費等を検証することができた。

●今後に向けて

登別市においては、令和2年度より、スポーツ関係団体等が地域スポーツの課題解決に向けて検討を開始し、令和4年度に方向性を見出し、現状、その目標に向かって、関係団体が文化関係団体を含め一体となって取組を進めている。

本市では、地域クラブ活動の推進を、持続可能な地域の文化振興への足がかりと考えていることから、引き続き、地域クラブ活動を推し進め、まずは中学生にとって望ましい文化芸術環境の構築を図っていく。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【登別市地域クラブのさまざまな情報が掲載されるホームページ】

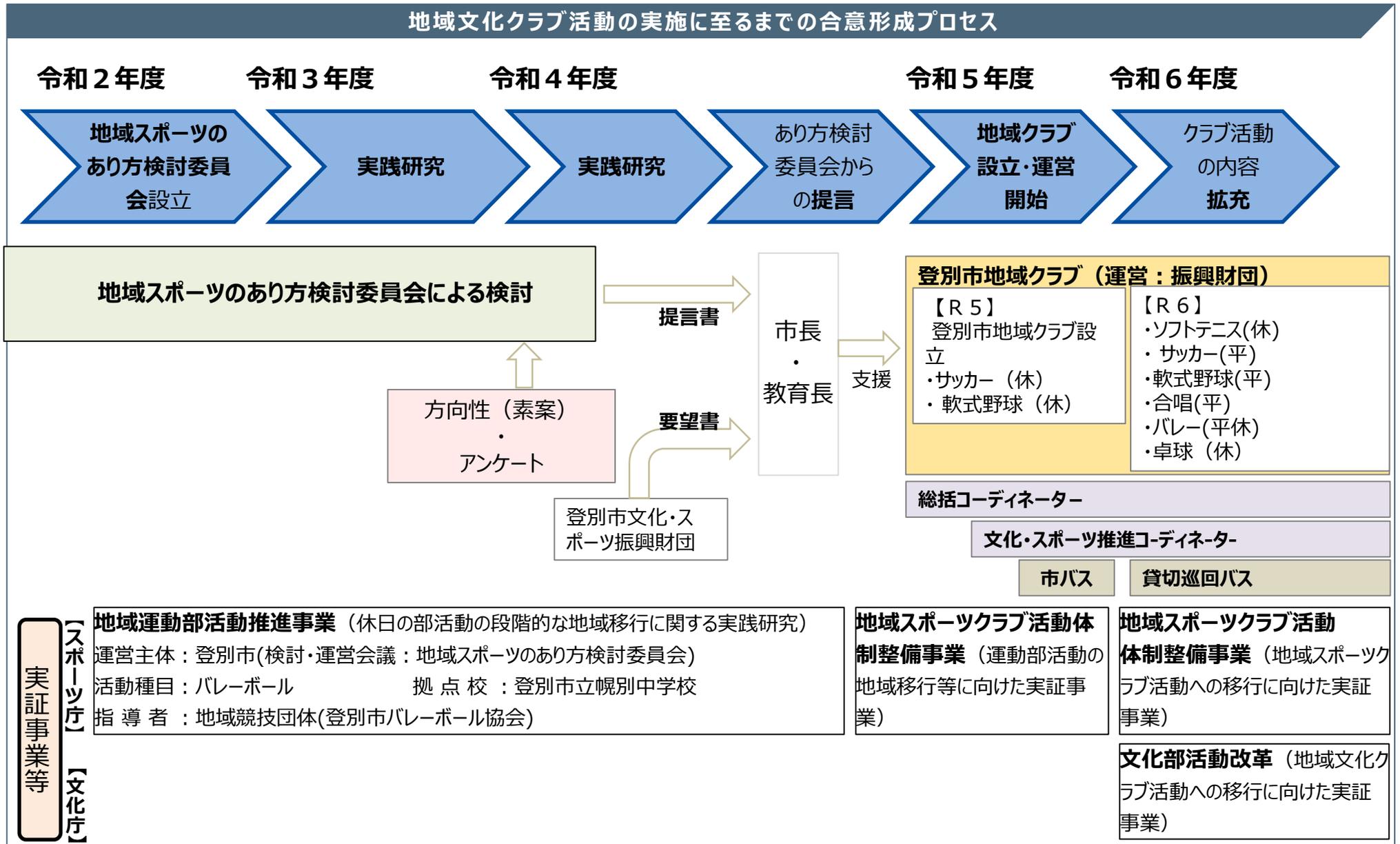


【学校間を巡回するバス】



【活動の様子（合唱チーム）】

2.実証内容と成果



3. 今後の方向性



地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ					
	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	目指す姿
登別市地域クラブ		地域クラブ活動の推進（地域クラブ活動の体制構築）			○中学生のスポーツ・文化芸術に親しむ機会の確保、生徒の健全な育成 ○生涯を通じた運動習慣づくりや文化芸術等の愛好の促進 ○スポーツ・文化芸術活動を通じた交流の輪の拡大 ○地域とともにある文化・スポーツの振興
			地域クラブ活動の推進（平日の学校部活動を順次地域クラブ活動として活動）		
				多様な活動に向けて、スポット活動を検討・実施	
		さまざまな課題解決に向けて、運営体制等を適宜見直し			
市	地域クラブに運営に対する支援（補助金の支出、新たな活動開始に向けた連携・協力）				
		総括コーディネーターの配置			
		巡回バスの運行（実証事業）の検証			
中学校	学校部活動の縮小・廃止				
		地域クラブにおいて指導を希望する教職員への配慮			
スポーツ団体	地域クラブにおける指導者確保に向けた協力				
			多様な活動に向けたスポット活動への連携・協力		



令和6年度

文化庁活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道白老町

自治体名：北海道白老町

担当課名：教育委員会生涯学習課

電話番号：0144-85-2020

1.自治体の基本情報



基本情報

面積	425.64 km ²
人口	15,048人
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	247人
部活動数	文化部：3部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【現状】

中学校は2校あるが、近年は両校とも部員数は減少しており、今後、単一校では部活動を維持することが厳しくなると見込まれている。

文化芸術活動においても、吹奏楽は単一校での編成が困難となってきている状況にある。

また、教職員の働き方改革に係る「時間外在校等時間」の集計において、それぞれの中学校で部活動の顧問をしている教職員の在校時間が長くなっている傾向が見られる。

【課題】

本町では少子化が進み、平成28年度と令和5年度の生徒数を比較すると約30%の減少となっており、現時点での出生数から推計される令和12年度の生徒数は、さらに25%程度減少するものと想定される。

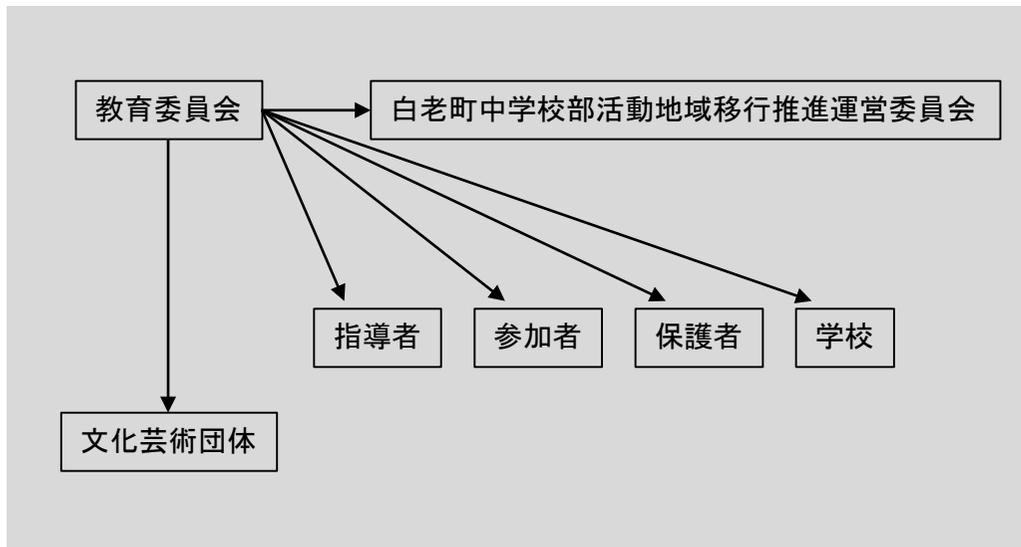
	白老中	白翔中	合計
H28年	222	151	373
H29年	201	154	355
H30年	183	136	319
R 1年	179	126	305
R 2年	162	109	271
R 3年	151	101	252
R 4年	143	106	249
R 5年	146	113	259
R 6年(推計)	147	102	249
R 7年(推計)	141	91	232

出店：白老町中学校部活動地域移行推進計画（R6.2策定）

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課・・・スクールバスのオペレーション
- ・生涯学習課・・・地域指導者との連絡調整、環境整備、学校との連絡調整

◎首長部局

- ・企画財政課・・・予算措置

年間の事業スケジュール

- 令和6年4月 実証事業計画作成
各学校との調整
- 令和6年5月 実証事業委託契約締結
各クラブとの連絡調整
- 令和6年6月 保護者との意見交換
- 令和6年8月 活動開始
- 令和6年10月 演奏会開催
- 令和6年11月 演奏会開催
- 令和6年12月 演奏会開催
- 令和7年3月 演奏会開催（予定）
町地域移行推進運営
委員会開催（予定）

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2クラブ
全体の指導者数	3人	全体の運営スタッフ数	3人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
吹奏楽クラブ	地域クラブ	吹奏楽	週3回	17:00 ～ 19:00	1年2人 2年1人 3年1人	通年	白老町コミュニティセンター	1人	1人 (内、兼務0人)	年会費 2,000円	その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- R06.10.06(日) ポロトミタラコンサート
- R06.11.17(日) 苫小牧市高齢者施設ウエストビレッジ演奏会
- R06.12.22(日) 北吉原ふれあいプラザクリスマスコンサート
- R07.03.02(日) サンクスコンサート（予定）

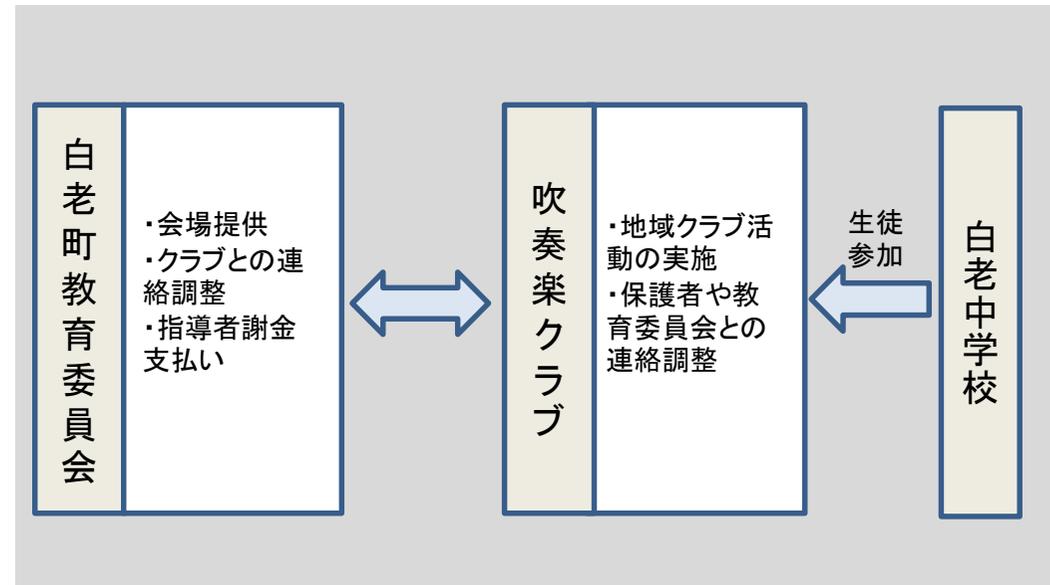
2.実証内容と成果

主な取組例

●吹奏楽クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	吹奏楽
運営団体名	吹奏楽クラブ (仮称) 白老ウインズブラスクラブ
期間と日数	吹奏楽：8月6日～ 週3回程度
指導者の主な属性	地域の吹奏楽団代表
活動場所	白老町コミュニティセンター
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	吹奏楽：2,000円
1人あたりの保険料	未加入

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者兼指導者

役割：活動における管理者として、学校・保護者との連携を行うとともに、指導者として生徒に指導を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

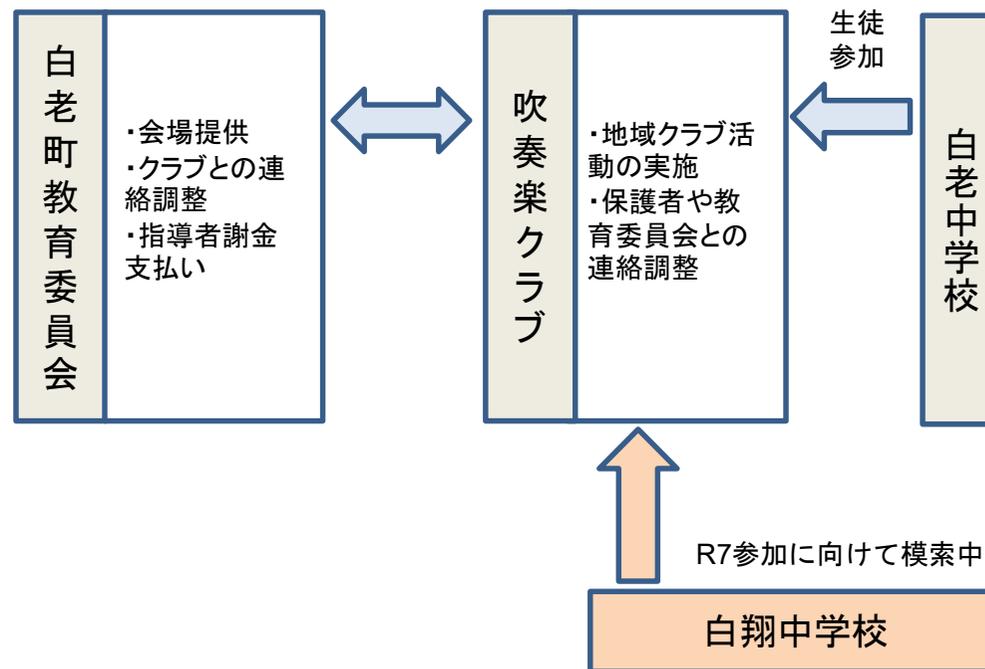
取組事項

- ・R6は教育委員会生涯学習課が主体となり、指導者や学校との連絡調整を行い、運営主体の移行を前提に準備を進める。
- ・R7から参加者・保護者・指導者・学校・関係団体・担当課（教育委員会生涯学習課）を結ぶ、コーディネーターの役割が重要となることから、人選を行っていく。

取組の成果

教育委員会生涯学習課がコーディネーターとなり、指導者や学校との連絡調整を行ったことで、町内2中学校（白老中・白翔中）にそれぞれ存在する吹奏楽部のうち、1校（白老中）において地域クラブ化を進めることができた。

今後においてはもう1校（白翔中）が地域クラブに合流できるよう体制を整備する必要がある。



コーディネーターの具体的な動きの実績

コーディネーターの配置実績なし

今後の課題と対応方針

現在運営に関わる地域人材は1名しかおらず、統括責任者と指導者を兼務しており、負担が大きい状況であることから、スタッフの確保が急務である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ・地域人材の協力体制の確保を目指すとともに、教職員等の兼業・兼職運用の整備を行うことで量を確保していく。
- ・地域クラブの持続的な活動が保証できるよう、R7移行時に指導者の公認制度の研修や講習が取扱えるよう準備を進める。

取組の成果

- ・町内文化団体連絡協議会と調整を図り、音楽連盟に加盟する白老吹奏楽団から指導者を1名確保することができた。
- ・上記指導者が所属する吹奏楽団内で地域クラブの活動状況等の説明を行い、新たな指導者の確保に努めたところ、新たに3名の大人がR7年度以降の指導に意欲を示している。
- ・平日の活動時間帯に関して、生徒・保護者の理想としてはこれまでの部活動と同様15：30～17：30であったが、指導者確保を最優先に考える必要があったため、生徒・保護者と協議を重ねて17：00～19：00とし、地域の指導者が活動に加わりやすい時間帯設定に努めた。

今後の課題と対応方針

生徒や保護者に対して安心安全な運営体制を保障するため、指導者研修等の実施を検討する必要がある。

また、当初は教職員等の兼業・兼職運用の整備を行うことで指導者の量を確保していく計画もあったが、未着手となっていることから、再度運用に向けた検討を進める必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

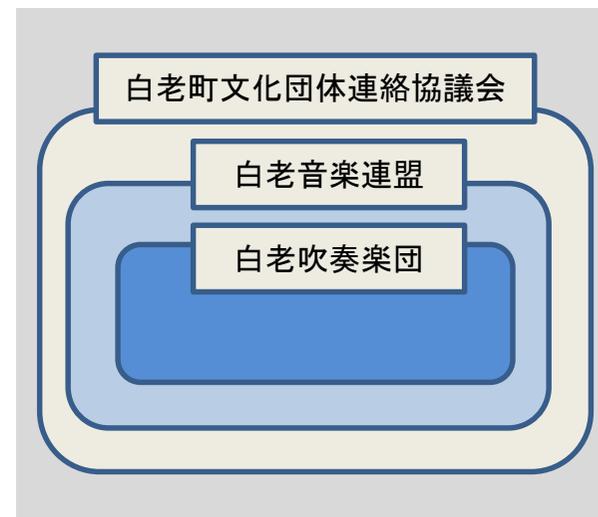
・文化団体連絡協議会との連携により、指導者の掘り起こしや発表の場の提供など地域と関わりを持ち、クラブ移行を進めていく。

取組の成果

指導者が白老町文化団体連絡協議会の会長でもあり、地域の社会人で構成される「白老吹奏楽団」の団長でもあることから、同団体との連携による合同演奏会を開催する計画が進んでいる。

今後の課題と対応方針

吹奏楽は本来大勢での合奏が醍醐味の一つであるが、同クラブの生徒数が少ない現状から演奏できる楽曲に制約がある。これらを解決するため、もう1校の吹奏楽部の地域クラブ合流を進める必要がある。



●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- ・地域クラブ参加者確保のため、小学生が演奏を聴く機会を設けることで、演奏することへの憧れや意欲を高める関わりをしていく。
- ・高校吹奏楽部や社会人の吹奏楽団との関わりを持てるよう、環境整備を進める。

取組の成果

社会人団体「白老吹奏楽団」との関わりにより、高いレベルでの演奏を間近で聞くことができ、生徒への刺激につながった。

今後の課題と対応方針

クラブ員の人数が少なく演奏できる楽曲に制限があることから、加入者を増やすための取組として地域の小学生向け演奏会や体験会等の実施を検討したい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

・複数のクラブ活動に参加できる
 仕組みを構築していく。

→未実施

・生徒のモチベーションを高めるため、
 地域住民向けの演奏会を実施した。

活動の詳細			
参加人数	4人	指導者数	1人
属性			
具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・観光商業施設での屋外演奏会実施 ・高齢者福祉施設での演奏会実施 ・地域の会館等での演奏会実施 		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの演奏を聴いてもらえると思うと、練習に力が入る。 ● 地域の方々の笑顔を見ることができて嬉しい。 		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 若いエネルギーを感じることができて元気をもらえた。 ● また演奏しに来てほしい。 		
運営経費	なし		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

観光商業施設や高齢者福祉施設、町内会館等での演奏会を実施し、合計で延べ60人の一般町民や観光客の方々に日頃の練習の成果を聞いてもらうことができた。

このことから、地域において複数回の演奏会を開催したことは、生徒にとってモチベーションにつながるとともに、活動と存在をPRしたことで地域住民からの応援を得ることができた。



11/17(日) 高齢者福祉施設での演奏会のようす

今後の課題と対応方針

○地域での活動展開は生徒のモチベーションにつながった一方で、活動の人数が少なく、演奏できる楽曲に限界があることから、活動人数の更なる充実を求める声が聞かれるようになった。

○今後においては社会人や高校生との合奏を視野に活動を進めていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

・白老町コミュニティセンター（白老町中央公民館）を活動拠点とするにあたって、施設使用料が免除となるよう条例・規則に基づき整理をした。

取組の成果

白老町コミュニティセンター（白老町中央公民館）館長との調整を図り、施設管理者の理解を得たことで、通常の貸館利用に影響のない範囲で活用することができた。

全65回の活動のうち、61回は白老町コミュニティセンターのいずれかの部屋を活用している。

吹奏楽クラブ活動場所・回数

全65回の活動のうち、61回が白老町コミュニティセンターで行われている。

〔 ・1回（町内会館）
・3回（地域での演奏会等） 〕

61回（白老町コミュニティセンター）

4回

今後の課題と対応方針

現状、白老町コミュニティセンターで支障なく活動できているが、今後クラブ員の増加を見据えると楽器の保管場所が課題となってくる。特に、打楽器の保管にはスペースを要する。

今後は学校施設（音楽室）を活動場所として使用できるよう、学校との調整を進めるとともに、足の確保についても検討する必要がある。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- ・地域の社会人で構成される「**白老吹奏楽団**」との**連携**の下、吹奏楽部の地域移行を進める運びとなった。
- ・2校のうち1校において吹奏楽部の地域移行が進んでおり、クラブには4名の生徒が在籍。
- ・**指導者としては同団体の団長へ委任し、8月以降週3回のペース**で白老町コミュニティセンターを拠点に活動を実施。
- ・人数が少なく、演奏できる楽曲に制限があるが、定期的に**同楽団から支援者を募ることで演奏の幅を広げている**。
- ・これまで地域に出向いた**演奏会を3回開催**し、住民に活動成果のお披露目をするとともに、**生徒のやる気を引き出している**。

●成果の評価

- 令和7年3月をもって廃部となる白老中学校の吹奏楽部において、吹奏楽継続したい生徒の受け皿を早急に確保できたことはよかった。
- クラブ員が4名という極めて人数が少ない中での活動であるが、地元の吹奏楽団との連携により同楽団から演奏支援者を募ることで、より幅広い楽曲の演奏を可能とするとともに、より高いレベルでの練習を行うことでスキルアップにつなげることができた。
- 一方で、各楽器の細かいパートについては少人数の強みを生かして手厚く指導を行うとともに、生徒の自主性を尊重することができた。

●今後に向けて

- 今後は、吹奏楽部が存続している白翔中学校の合流を進め、町全体として吹奏楽部の地域移行を進めることができるよう、足の確保や活動拠点の整備、さらには楽器の修繕にかかる資金調達など、環境整備を進める必要がある。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【10/6(日) ポロミントラコンサート】



【11/17(日) 苫小牧高齢者施設ウエストビレッジ演奏会】



【12/22(日) 北吉原ふれあいプラザクリスマスコンサート①】



【12/22(日) 北吉原ふれあいプラザクリスマスコンサート②】

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

白老町教育委員会、白老中学校、白老吹奏楽団

●経過

令和7年3月末をもって白老中学校吹奏楽部の廃部が決まり、町教育委員会と地元の白老吹奏楽団関係者が協議を重ね、中学生向けのクラブを立ち上げた。

●実施にあたって生じた課題

練習時間帯はこれまでの部活動の時間帯が望ましかったが、指導者の確保等の課題があったため、保護者の理解を得た上で17～19時に設定した。

また、活動拠点としては中学校の音楽室が望ましかったが、セキュリティ（機械警備）のため教職員以外の音楽室の立ち入りが不可能な時間帯であったことから、白老町コミュニティセンターを拠点とするため管理者と協議し、施設使用料は全額免除とした。

しかし、白老町コミュニティセンターは楽器の保管場所が少ないため、今後は学校施設（音楽室）を活動場所として使用できるよう、学校との調整を進めるとともに、足の確保についても検討する必要がある。

なお、地域クラブとしてコンクールに出場する際は、地区吹奏楽連盟（苫小牧）に加盟する必要があるが、会費徴収を含めて加盟料にかかる資金調達の見通しが立てられなかったことから、生徒や保護者と協議の結果、本年度は加盟しないこととした。

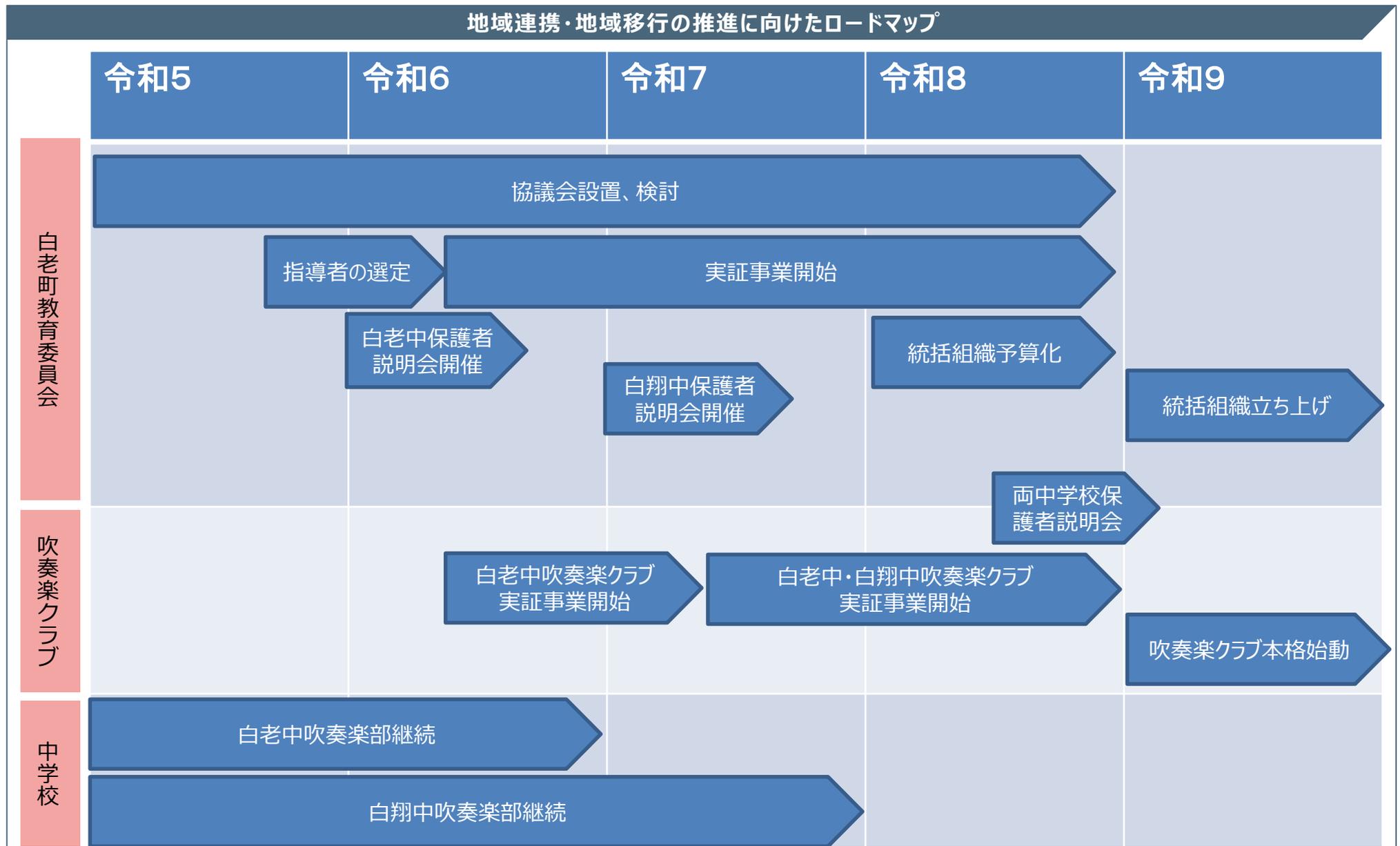
●実施内容、工夫した点等

コンクールには参加できなかったものの、生徒のモチベーションを高めるため、定期的に地域に出向いた演奏会を企画・開催した。

●今後の展開

今後も定期的に演奏会を開催し、地域とのつながりをさらに広げるとともに、コンクールにも出場できるよう連盟加盟を見据えた会費負担の必要性も説明していきたい。

3. 今後の方向性





令和6年度

文化庁活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道厚岸町

自治体名：北海道厚岸町

担当課名：教育委員会生涯学習課

電話番号：0153-52-7785

1.自治体の基本情報



基本情報

面積	739.12 km ²
人口	8,195 人
公立中学校数	3 校
公立中学校生徒数	171 人
部活動数	2 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

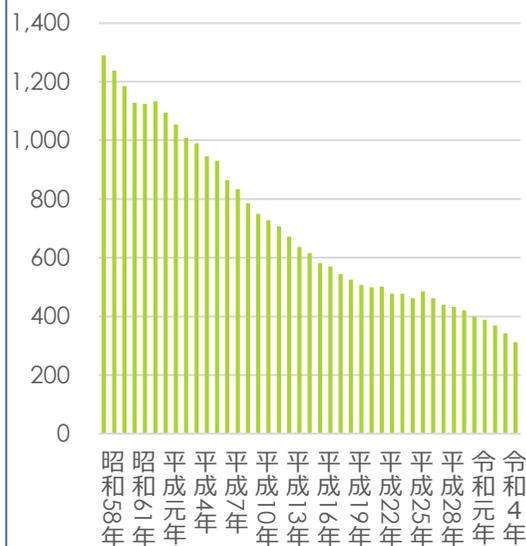
厚岸町における文化系部活動については3つある中学校のうち、2つの学校に吹奏楽部があり、そのうち1校については部員がいないため現在は休部状態となっている。

令和6年度の活動内容としては平日は学校部活動として活動し、休日の活動については地域に移行を開始した。地域で指導可能な人材がいたとはいえ、円滑な移行のため、当面は学校

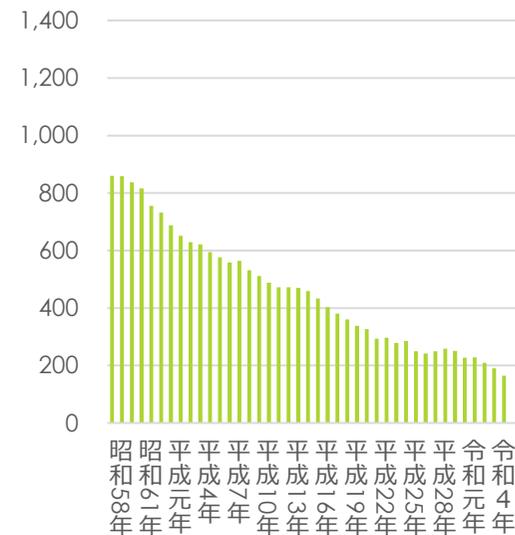
部活動顧問の教員にも地域指導者として活動に加わっている。

今後の生徒数の減少に伴い、部員数の減少が見込まれ、小学校の段階から吹奏楽人口を増やす必要があることや、休部中の中学校においても加入希望者を募り、部員数を確保していくことが課題である。

厚岸町小学校児童数



厚岸町中学校生徒数



2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	2クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（1）		厚岸Jr.ウインドバンド（吹奏楽部）
	B：部活動を移行する形態でない地域クラブ(1)		海事記念館子どもクラブ
全体の指導者数	6人	全体の運営スタッフ数	7人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
厚岸Jr.ウインドバンド	厚岸総合クラブ JOY	吹奏楽	月4回	9時～12時	中1 2名 中2 2名 中3 2名	4月～3月	厚岸町立真龍中学校 ・武道館 ・音楽室	3人	2～3人	月会費 2000円	大会やコンサートはすべてクラブ参加
海事記念館子どもクラブ	厚岸総合クラブ JOY	文化クラブ	月1回	10時～12時	小4 3名 小5 6名 小6 1名	4月～3月	主に厚岸海事記念館	4人	2～3人	無	無

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

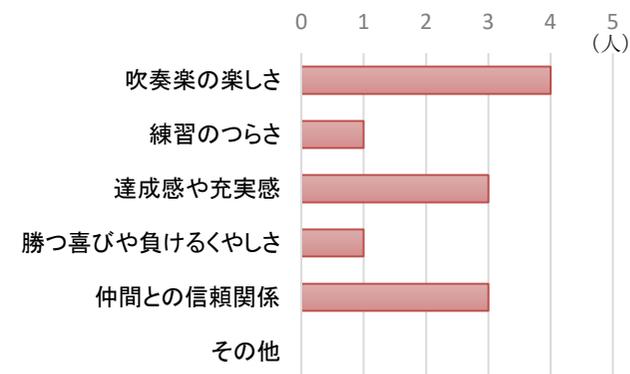
取組事項

- 文化系のモデルクラブとして、町内中学校の吹奏楽部の休日における活動を地域クラブ活動とした。
- クラブ名を「厚岸Jr.ウィンドバンド」として活動した。
- 6月に厚岸総合クラブJOYを設立し、当面教育委員会生涯学習課が事務局を担い、クラブが円滑に活動ができるようクラブの管理や指導助言を行った。

取組の成果

- 地域指導者と学校部活動指導者が綿密に情報を共有することで、休日の活動がスムーズに行われていた。
- 大会やコンテストの他、町内で行われた様々なコンサートの参加機会に恵まれ、発表機会が大幅に増えた。
- 町内のイベントにも積極的に参加し、地域展開が図られたケースとなった。
- 中学生6人を対象としたアンケートの結果、回答者した4名全員が「吹奏楽の楽しさを感じた」と答えるなど、充実した活動の様子が見えてきた。
- 保護者からも、発表の機会の充実ぶりを評価する声が上がっていた。
- 練習会場については、管理人が常駐し管理することとした。

活動を通して感じたこと(複数回答)



(令和7年1月実施生徒アンケートより)

今後の課題と対応方針

- 運営クラブである厚岸総合クラブJOYの財源確保、指導者確保、移送手段の確保が最大の課題⇒R7年度中に道筋をつけていく。
- 吹奏楽は、楽器の購入や楽器のメンテナンスなど多額の費用が生じる⇒個人負担の他、工夫をしながら楽器を確保していく。
- 大会やコンサートなどでの楽器の運搬について⇒負担が大きくなるないように、運搬方法を検討する。
- 休日の地域移行から平日をも含めた完全移行を検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- 令和6年10月に厚岸総合クラブJOYサポーターバンクを設置し、指導者の確保に努めた。
- 指導者の資質向上を図る研修については、今年度、スポーツ障害予防講演会を行うため、文化系指導者の研修は実施していない。

人材バンクの年齢構成

30代	1名
40代	1名
50代	1名
60代	1名

種目

○吹奏楽

資格有無

○無

人材バンクの人数

○4名

サポーターバンクの構成

クラブ指導者

- 厚岸総合クラブJOYの活動の指導を行う。
- 中学生への指導を基本とするが、小学生や高校生も対象とした活動も想定。
- 指導日、報酬の額等は、JOY規定に基づく。

ボランティアスタッフ

- 厚岸総合クラブJOYの活動を指導者の監督の下、ボランティアスタッフとして支える。
- 報酬等はないが、スポーツ保険は、JOY規定に基づき事務局が加入する。

保護者スタッフ

- 厚岸総合クラブJOYのクラブに加入している子の保護者を対象とし、指導者の監督の下、クラブ活動を支える。
- 報酬等はないが、スポーツ保険は、事務局が加入する。

取組の成果

- アンケートから「技術力の向上」を実感している生徒や保護者が多い。
- 保護者から「地域移行となったことで、文字通り、音を楽しむことができ、音楽を続けたいという気持ちに生まれて、大変ありがたく思っています。」との声が上がっていた。
- 今後も、サポーターバンクのスタッフを3構成とし、指導支援体制の充実を目指し募集を継続していく。

成長の実感(複数回答)



■生徒 ■保護者
 (令和7年1月実施生徒・保護者アンケートより)

厚岸総合クラブ JOY サポーターバンク募集案内

厚岸町教育委員会では、中学校の部活動を地域に発信するにあたり、少年団や児童、スポーツ、文化目標等の状況を踏まえ、本年6月に地域クラブ「厚岸総合クラブ JOY」を創設しました。今年度から主におけるクラブ活動をスタートし、段階的に中学校の部活動を地域クラブに移行していきます。(詳細は、裏面にをご覧ください。)

そこで、「厚岸総合クラブ JOY」では、サポーターバンクを設置し、クラブ指導者、ボランティアスタッフ、保護者スタッフを募集いたします。

厚岸に住む子どもから大人まで、生涯にわたり学習や活動ができる環境づくりを進めたいと考えています。ご関心とご協力をお願いします。

クラブ指導者	ボランティアスタッフ	保護者スタッフ
<ul style="list-style-type: none"> 厚岸総合クラブJOYの活動の指導を行います。 中学生への指導が基本ですが小学生への指導も対象とした活動も想定しています。 指導日、報酬等については、JOY規定に基づきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 厚岸総合クラブJOYの活動をボランティアスタッフとして支えていただきます。 指導者の監督の下、クラブ活動を支えていただきます。 報酬等はありませんが、スポーツ保険については、JOY規定に基づき加入いたします。 	<ul style="list-style-type: none"> 厚岸総合クラブJOYのクラブに加入しているお子ごとの保護者が対象です。 指導者の監督の下、クラブ活動を支えていただきます。 報酬等はありませんが、スポーツ保険については、JOY規定に基づき加入いたします。

◎応募について◎
 ◎応募いただいた情報は、内容を掲載の上、「厚岸総合クラブ JOY サポーターバンク」に登録します。
 ◎ご協力の方が指導者として応募される場合は、所属校の校長の了解を得て、教育委員会から教職兼業の許可を必要とさせていただきます。
 ◎登録者は、JOYでの任用に活用することを目的としていたため、目的外での使用は一切いたしません。
 ◎登録者が必ず任用されるわけではありません。

◎応募方法◎
 右の二次元コードから応募フォームにアクセスし必要事項を入力してください。
 フォームの入力が難しい場合は、事務局に電話でお願いください。

厚岸総合クラブ JOY サポーターバンクに



「募集種目」→
野球・サッカー・バドミントン・バスケットボール・陸上・吹奏楽のほか、運動系・文化系クラブ活動の指導者、または、スタッフを募集します!

1口厚岸総合クラブJOYとは・・・
 ○幼児・小学生・中学生・高校生・大人すべてを対象とし、持続可能な生涯学習・生涯スポーツの活動環境を整えることを目的とした地域クラブです。
 ○現在は、「厚岸レインボークラブ(陸上)」「厚岸 Jc.ウィンドバンド(吹奏楽)」「厚岸キッズクラブ(幼児対象)」「厚岸海軍クラブ(小学高学年対象)」の4つのクラブが活動しています。

2口中学校の部活動は・・・
 ○R6年度は、2つの部活動(陸上・吹奏楽)がJOYに加盟し、平日は学校指導者、休日は地域指導者が担当しています。
 ○R7年度は、現在活動しているすべての部活動(野球・サッカー・バドミントン・バスケット)などの休日の活動が、地域指導者のもとで活動できるよう準備を進めています。

3口中学校の部活動だけでなく・・・
 ○現在、小学生を中心として活動している少年団や、高校の部活動とも協働を進め、持続可能な活動環境を整備してまいります。また、生涯学習課の事業も一部クラブ活動化し、幼児から高校生、大人を含めた活動ができるよう準備を進めています。

4口JOYの組織やQ&Aなどは、右の2次元コードからご覧いただけます。
 「なぜ、中学校の部活動を地域に移行するのですか?」
 「昨年実施したアンケートの結果をみることはできますか?」
 「地域に移行すると、保護者の負担はありますか?」
 「なぜ、厚岸町は幼児から大人までを対象とした地域クラブにするのですか?」

事務局 厚岸町教育委員会生涯学習課スポーツ係 0153-52-7785

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

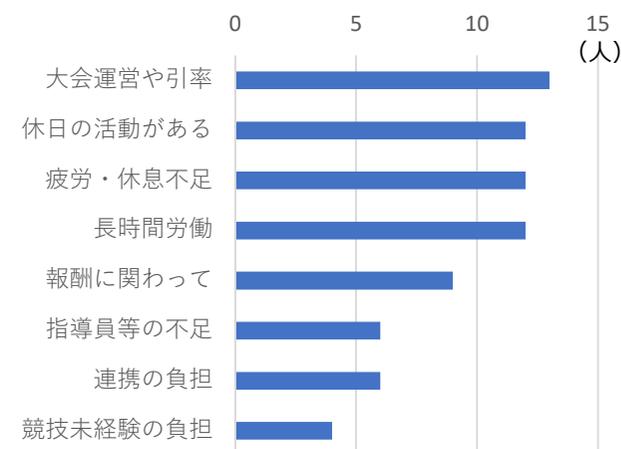
取組事項

- 定例校長会議、教頭会議で、毎回クラブ活動の情報を提供。
- 児童・生徒・保護者・教職員を対象としたアンケート調査を実施し、ニーズをとらえた。
- 町内全小中学校教職員に、教育長から本町の取組を説明。
- 中学校3校のPTA総会で、事務局からクラブの取組を説明。
- 中学校1校に管理人を配置。
- 教育委員会が所有するスポーツバス等を活用。

取組の成果

- 校長会議などで、地域移行の状況について情報提供を行い、学校の理解を得ながら移行を進めることができた。
- 本町の小中学校全教職員を対象に、地域移行の状況を説明することにより、学校の理解がより進んだ。
- 休日に管理人を配置することで、雨天時や冬期間の校舎の活用が可能となり、学校管理職の負担を軽減することができた。
- 町議会では、複数回本町における部活動の地域移行について取り上げられ、「持続可能な生涯学習、生涯スポーツの環境を整える」ことについて説明した。
- 部活動の地域移行研修会（令和6年11月26日開催）を通して、先進事例や本町の取組の情報を共有することができた。

部活動指導者の負担感



(令和5年7月実施教職員アンケートより)

バス等の運行実績

- ・日数 1日
- ・利用者数 7人
- ・運行内容 厚岸jr.ウインドバンドの吹奏楽コンクール出場時の送迎を支援

今後の課題と対応方針

- 教育関係者には、厚岸総合クラブJOYの取組状況は周知されているが、町民に対しての説明が不足しているとの指摘を受け、今後、町民や保護者に向けた説明会を実施予定。（令和7年2月26日開催予定）
- 部活動のスクールバス活用から、地域クラブ活動のスポーツバス等の活用へ、契約変更の手続きなどを確実に進めていくことが重要。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○厚岸総合クラブJOYは、幼児から大人まで持続可能な生涯学習・生涯スポーツの環境整備を目的に、令和6年6月に設立。事務局は、当面教育委員会生涯学習課が担うこととし、令和9年度以降、完全移行（休日、平日ともに地域クラブ活動）を目指していく。

○令和5年7月に部活動の地域移行に係るアンケート調査を実施し、児童・生徒・保護者・教職員のニーズの把握に努めた。

○令和7年1月にJOY加入の生徒・保護者を対象にアンケート調査を実施した。

○令和6年度に指定した4モデルクラブの1つである厚岸Jr.ウインドバンド（吹奏楽）は、平日は部活動、休日は地域クラブ活動として、練習はもとより大会や地域のコンサートに積極的に参加していた。

活動の詳細

参加人数	6人	指導者数	2人
属性	厚岸Jr.ウインドバンド（吹奏楽）		
具体的な内容	R6年5月から平日は部活動、休日は地域クラブ活動（厚岸総合クラブJOY）として活動をスタートさせた。地域クラブ指導者は、厚岸町吹奏楽団の団員が担い、レベルの高い指導がなされることで、生徒の上達ぶりを評価する声は大きい。大人の楽団員や高校生、他町の楽団員とも合同の練習やコンサートなどで交流を深めるなど、活動の幅が大きく広がっている。		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> アンケートに回答した4名全員が「クラブ活動は充実している、どちらかというと充実している」と答えている。 特に、仲間と練習しているときに充実していると全員回答している。 		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な指導から始め、音がみるみるうちに重なるなど日々成長している。（指導者） 地域移行を進めていくためには、学校と地域の指導者間の綿密な連携が重要。（指導者） 発表の場が広がり、感謝している。（保護者） 音を楽しみ、音楽を続けたいという気持ちにさせてもらえてありがたい（保護者） 		
運営経費	運営経費は、指導者報酬と部活動地域移行検討協議会の旅費のみとなっている。	<p>充実している時は</p> <p>（令和7年1月実施生徒アンケートより）</p>	

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

○吹奏楽部は昨年度まで2校が活動していたが、R6年度は1校が休部となり、真龍中学校1校が、平日は部活動として週4日程度、休日は厚岸Jr.ウインドバンドとして活動した。

○中学校吹奏楽部から移行した厚岸Jr.ウインドバンドは、地域で活動する厚岸町吹奏楽団を受け皿に活動を展開した。吹奏楽は、最も地域移行が難しいといわれているクラブの1つであり、1年間で多くの成果と課題を検証することができた。

○部活動地域移行の実証事業の大きな成果の1つは、学校指導者と地域指導者の綿密な連携を前提とした生徒への指導である。平日の部活動の指導と、休日の地域クラブの指導の方向性を同じにすることで、生徒は混乱なく活動することができた。

○発表（大会やコンサート、文化祭など）の場が多くなり、生徒の練習のモチベーションも高まっていた。

○初心者の生徒も専門的な指導を受け、上達していく様子が見られた。

○大人や高校生、他町の楽団員との交流を経験することで、生徒の技術面が大きく向上した。

○町民に披露する発表会を通して、町で育つ生徒の成長を見る機会となり、まちづくりの視点からも重要な活動となった。

今後の課題と対応方針

○財源の確保が最大の課題である。吹奏楽は、高価な楽器、消耗品やメンテナンスの費用も高額となることから、今後、支援体制が不可欠である。

○楽器の移送など大型の楽器は、個人での運搬が難しいため、大会やコンサートなどでは、トラックなどの確保が必要となる。

○現在1校が地域クラブである厚岸総合クラブJOYに加入している状況であるが、次年度以降複数校の生徒の加入となると、さらに冬場の生徒の送迎体制も課題となる。

○学校指導者から地域指導者へのスムーズな移行、さらには平日の移行を視野に入れると、指導者間の連携がより必要となる。

○本町の中学校の部活動は、スポーツ系に比べ、文化系が少ない実態にある。しかし、教育委員会生涯学習課の文化事業は活発に推進されていることから、今後、自然、科学、文化、環境、伝統芸能など、当町の教育環境を生かしたクラブの展開を図っていく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

○厚岸Jr.ウィンドバンドは、当初、真龍中学校武道場で休日の活動を開始した。校舎を管理する上で、休日の音楽室での活動は難しく、校舎と分離されている武道場の管理が容易であったためである。しかし、活動を始めると、室内の寒暖差が激しく練習に支障をきたすことや、練習日の前日には、楽器を3階から1階へ搬入する時間と労力がかかることから、指導者や保護者から音楽室の使用を求める声が上がった。そこで教育委員会は、11月から管理人を配置して休日の校舎を管理することとした。

取組の成果

- 管理人を配置することで、休日の管理職の負担を軽減することができた。
- 音楽室が練習場所となることで、楽器の移動がなくなり、練習時間を確保することができた。
- 管理人を配置することで、スポーツ系のクラブも冬場やグラウンドが使用できない状況であっても、校舎内のスペースを利用して活動することができるようになった。
- 管理人と指導者と事務局の連絡体制を確立することで、休日におけるクラブ活動の緊急時対応が可能となった。

今後の課題と対応方針

- 現在、真龍中学校の施設（グラウンド、体育館、音楽室、廊下）を活用し、地域クラブである運動クラブ、文化クラブが活動を行っている。今後、クラブ数が増えることから、他の学校や町有施設の活用を図り、活動環境を整えていく。
- 特に、文化活動は、生涯学習課が一部管理する真龍小学校の校舎を積極的に活用する。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

厚岸総合クラブJOYは、幼児・小学生・中学生・高校生・大人すべてを対象とし、持続可能な生涯学習・生涯スポーツの活動環境を整えることを目的に、令和6年6月に設置した。事務局は、当面、教育委員会生涯学習課が担うこととし、4つの団体をモデルクラブにスタートした。運動系の団体は、中学校部活動から移行する「厚岸レーシングクラブ」と幼児から低学年児童を対象とした「厚岸キッズクラブ」の2団体である。文化系の団体は、中学校の部活動から移行する「厚岸Jr. ウインドバンド」と、厚岸の自然や文化、歴史を学ぶ「海軍記念館子どもクラブ」の2団体である。

厚岸総合クラブJOYの運営母体である運営委員会では、単に中学校部活動を地域に移行するのではなく、本町の恵まれた生涯学習環境を生かし、持続可能な活動環境を整えていくことを確認した。R7年度は、団体が4団体から11団体に増えるため、これまでの検証の成果を生かし、地域移行、地域展開を進めていく。

●成果の評価

厚岸総合クラブJOYを立ち上げて1年。成果というよりも、地域移行検討協議会で協議を重ねるたびに新たな課題が見つかることを繰り返してきた。ある委員が「課題という小さな石ころを拾いながら少しずつ進んでいるという感じですね。」と発言されていた。検討協議会発足当初から、すべて環境を整えてから新クラブを立ち上げるのではなく、一歩でも前に進めながら課題を見つけ、モデルクラブの成果と課題を明らかにして検証を進めたからである。したがって、まだ成果を評価する状況にはないことから、引き続き課題を拾いながら、厚岸スタイルの地域移行、地域展開を進めていく。

●今後に向けて

各部活動との協議を進める中で、種目により課題が違うことが浮き彫りとなった。指導者資格や審判資格が必要なクラブ、統一したユニフォームが必須のクラブ、単独ではチームが組めず他町村との合同チームを余儀なくされるクラブなど、課題は多様であり、部活動の地域移行が進まない要因の1つである。

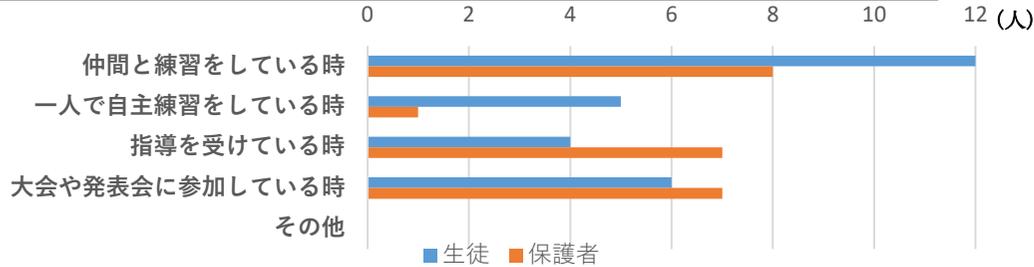
全国的な共通課題として、指導者の確保、財源の確保、生徒の送迎手段の確保などがあげられているが、種目ごとの課題や本町のような小規模自治体の課題などもとらえたうえで、R7年度は休日における全部活動の地域移行、厚岸総合クラブJOYの地域展開を積極的に進めていく。

2.実証内容と成果②

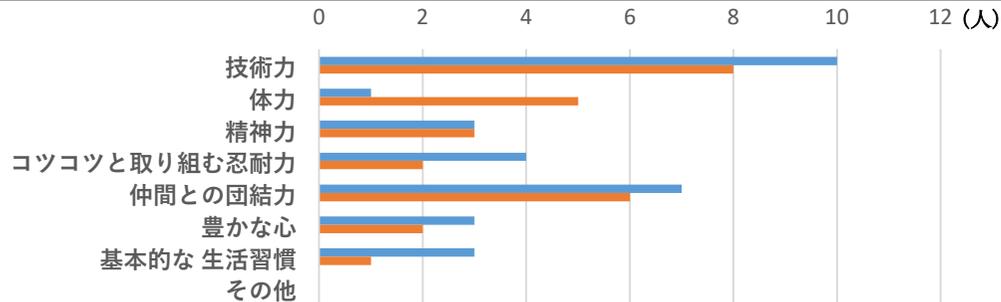
アンケート結果・参加者の声

- アンケート結果 (令和7年1月実施生徒・保護者アンケートより)
 回答数 生徒・陸上9名 吹奏楽4名
 保護者・陸上5名 吹奏楽5名

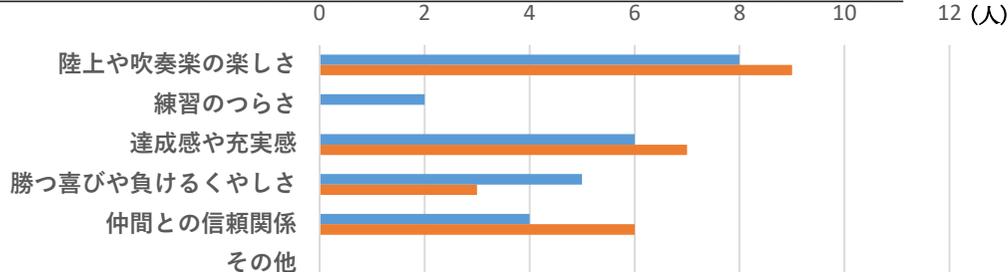
Q.総合クラブ JOY で活動して、どんな時が充実していますか？ (複数回答)



Q.総合クラブ JOY で活動して、成長したと感じたことはどんなことですか。 (複数回答)



Q.総合クラブ JOY で活動して、感じたことはどんなことですか。 (複数回答)



● アンケートや聞き取りから

中学年生の声 (厚岸Jr.ウインドバンド 吹奏楽)

コンサートは、とても緊張したけど、たくさんのお客さんの前で発表することができた。

中学年生の声 (厚岸レーシングクラブ 陸上)

部活動や休日の練習をする中で、どんどん記録が伸びていくのがうれしいです。

指導者 (指導者間協議の発言から)

地域指導者と学校指導者が綿密な情報共有のもと指導観を共有し、「楽しみたい」「上達したい」という意欲を高めていきたい。

保護者 (アンケートから)

完全に移行するまでは、物事が上手くいかないこともたくさんあると思いますが、子どもたちの意見にも耳を傾けてほしいと思います。

指導者の方の仕事の都合などで平日の練習がどのように行われていくのか気になっています。

2.実証内容と成果③

広報資料

○R6年度、部活動の地域移行を進めるにあたり、4月にモデルクラブ4団体の募集を行った。紙幅の都合上、4団体の活動の様子は、2次元コード紹介動画を視聴するスタイルとし、申し込みは、Web又は申込書で行うこととした。

厚岸レーシングクラブ
厚岸 Jr. ウィンドバンド (吹奏楽)
厚岸キッズクラブ
海事記念館

地域部活動

4月から段階的に部活動が変わります!

部活動が学校から離れ、学校の枠にとられず誰でも自由な自分のやりたい活動を選択できるようになります!
令和6年度は、4つのモデルクラブを対象に、土日におけるクラブ活動を進めていきます!

モデルクラブ4団体

- ①厚岸レーシングクラブ
- ②厚岸 Jr. ウィンドバンド (吹奏楽)
- ③厚岸キッズクラブ
- ④海事記念館こどもクラブ

各クラブの紹介動画はこちら

詳しくは裏面をチェック!

【園児・児童・生徒への募集チラシ (表)】

令和6年度 何がかわる? 厚岸の部活

モデルクラブ4団体の活動紹介

- 1 厚岸レーシングクラブ**
対象：小学生・中学生
活動場所：主に真能中学校グラウンド
活動日：土曜日
会費：小学生年間4,000円
中学生年間4,500円
※大会参加費等はその都度必要になります。
指導者：小林敏美 他
☆高校生のコーチングスタッフを募集します!
- 2 厚岸 Jr. ウィンドバンド (吹奏楽)**
対象：中学生
活動場所：今年度は真能中学校
活動日：土曜午後の活動から実施
会費：部活動と合わせて2,000円/月
指導者：森脇智亮 (他、厚岸町吹奏楽団員など)
活動予定：吹奏楽コンクール・吹奏楽フェスティバルなど
☆学校の枠を超えて一緒に吹奏楽を楽しもう!
- 3 厚岸キッズクラブ**
対象：幼児4才から小学3年生 (保護者同伴必須)
活動場所：主にB&G海洋センター
活動日：土曜日 (月1回)
担当：生涯学習課 スポーツ係
会費：無料
☆幼少期に大切な基礎体力を高めます!
- 4 海事記念館こどもクラブ**
対象：小学4・5・6年生
活動場所：主に海事記念館
活動日：土曜日または日曜日 (月1回)
担当：生涯学習課 海事記念館
会費：無料
☆活動をととして、厚岸町をもっと知りましょう!

○後日、入会された幼児・児童・生徒の保護者を対象に、説明会を開催します。
○第1期のお申し込み期限は、4月30日 (火) といたします。申込方法は、「WEB (QR 読取)」「申込書の提出 (学校または B&G 海洋センター)」のどちらかとなります。
○詳しくは、別紙「厚岸総合クラブ JOY スタート!」をご覧ください。不明な点は、厚岸町教育委員会生涯学習課 (スポーツ係 TEL:0153-52-7785) までお問い合わせください。

キリトリ

【厚岸総合クラブ JOY 入会申込書】

クラブ名	 WEB 申込用 QR (読み取りの上、必要情報を入力)	
氏名	保護者氏名	
学校名	学年	
住所	連絡先	

【園児・児童・生徒への募集チラシ (裏)】

広報資料

○部活動の地域移行を進めるにあたり、児童、生徒、学校教職員、地域指導者、保護者等、様々な関係機関・関係団体に説明するための広報資料が必要となったことから、JOY事務局が作成した。特に、厚岸総合クラブ活動を進め、組織運営を中心に指導者や財源の確保などの検証を行います。

ブJOYの方針や移行スケジュールなどをわかりやすくまとめることで、周知を図った。R7年度も移行部活動が多くなることから、広報チラシを作成し理解を図ってきたい。

【厚岸総合クラブJOYのチラシ（表）】

厚岸総合クラブ JOY スタート
 まずは、モデルクラブから実証事業開始

厚岸町教育委員会では、中学校の部活動を地域に移行するにあたり、少年団や高校、スポーツ・文化団体等の状況を踏まえた上で、部活動地域移行検討協議会での協議を重ねてきました。令和6年4月に「厚岸総合クラブ JOY」を設置し、4つのモデルクラブを対象に土日におけるクラブ活動を進め、組織運営を中心に指導者や財源の確保などの検証を行います。

目指すもの

- 幼児・小学生・中学生・高校生・大人すべてを対象とし、持続可能な生涯学習・生涯スポーツの活動環境を整えます。

そのために

- 国の委託事業に参加し、令和6年度はモデルクラブによる実証事業を通して、厚岸スタイルの総合クラブの運営を検証します。
- 当面教育委員会が運営委員会の事務局を担い、総合クラブの運営を行います。
- 地域移行への理解を深めるため、保護者・市民を対象とした説明会を開催します。
- 学校部活指導者と地域クラブ指導者との連携を図り、スムーズな地域移行を進めていきます。

厚岸町における部活動地域移行スケジュール

R5

- 厚岸町における部活動の地域移行に関するアンケート調査
- 厚岸町部活動地域移行検討協議会の設置
- 「みんなで考える部活の地域移行」研修会
- 厚岸町部活動地域移行に関する推進計画策定
- 部活指導者との面談協議開始
- 少年団・団体との面談協議開始
- アンケートの結果公表（広報あつし12月号）
- 運営組織・モデルクラブの検討
- 地域クラブ活動への移行に向けた実証事業の申請

R6

○モデルクラブ4団体における土日の地域移行

- 厚岸総合クラブ JOY 設置に伴う要綱及び運営規程等の整備
- 地域クラブ活動への移行に向けた実証事業の開始
(国の委託事業) ・体前整備 ・指導者の確保
・関係団体との連携強化 ・他市町村との連携
・活動内容の充実 ・参加費の負担と支援
・学校施設の活用
- 保護者・町民向け説明会の開催
- 厚岸町版指導者バンクの設置
- モデル事業の検証及び休日における全部活の地域移行の可否についての協議

R7

○中学校全部活動の土日における地域移行

- 地域クラブ活動への移行に向けた実証事業の継続
- 児童・生徒、保護者・教職員へのアンケート調査
(任意での参加とこれからの事業について)
- 平日における部活動の地域移行の検討
- 実証事業の終了に伴う次年度からの見直し

R8

○一部中学校部活動の平日における地域移行(一部部活動の完全移行)

R9以降

全部活動の完全移行

【厚岸総合クラブJOYのチラシ（表）】

部活の地域移行 Q&A

Q1 なぜ、中学校の部活動を地域に移行するのですか？

A 要因は大きく3つあり、全国、北海道、厚岸町共通となっています。1口生徒の人数が減少していること、2口部活動の数が減少していること、3口教職員の働き方改革がすすんでいてのこと、このままだと、いずれ部活動が立ち行かなくなることが予想されるため。

Q2 国や道は、どのような方向性を示していますか？

A 令和5年度から7年度までの3年間を「改善推進期」として、地域の実情に応じて部活動の地域移行の星型推進を目指しています。北海道も厚岸町も同様の方向でスケジュールを立てています。

Q3 令和5年6月に実施した児童・生徒・保護者・教員アンケートの結果を知ることができますか？

A はい、右の2次元コードから、アンケートの結果と分析の概要をご覧いただけます。

Q4 クラブになると会員などが必要になると聞きましたが、保護者の負担はあるのでしょうか？

A はい、部活動のクラブ化により、主に指導者へ支払う報酬のための会費が必要となります。過度な負担とならないように、国や道、町の補助も含め、実証事業の中で検証していくこととなります。

Q5 中学校の部活動の地域移行が、なぜ、厚岸町では幼児・児童・生徒・大人すべてを対象とした地域クラブ活動になるのですか？

A 町のスポーツ団体・文化団体・教育関係者の代表で構成する「厚岸町部活動地域移行検討協議会」では、中学校の部活動の地域移行をすすめる上で、持続可能な生涯学習・生涯スポーツの活動の環境を整えることを重視して協議を重ねてきました。厚岸町内では、これまで少年団や団体の活動が活発に行われてきました。また、生涯学習課の様々な事業にも子どもから大人まで多くの町民が参加しています。これらの活動を受け皿に、これまでの学校部活動を「地域クラブ活動」として町内規模で組織化することで、生涯にわたり学習や活動ができる環境づくりを目指します。

Q6 厚岸総合クラブ(仮称)は、事務局が教育委員会に置き、運営委員会がクラブの運営を行います。したがって、実証主体、責任主体もすべて運営委員会となります。

運営内容としては、指導者の確保や活動施設の確保、バス等の配車計画、保険・会計など、所属団体共通の業務を行います。所属団体個別の業務などは、団体組織の中で対応いただくことを想定しています。

厚岸総合クラブ(仮称)

総会
運営委員会
事務局
厚岸総合クラブ(仮称)の各団体

クラブ全体の運営を行います。
・会長
・副会長
・運営委員
・幹事

当面、厚岸町教育委員会に事務局を置きます。

R6年は、4つの団体をモデルクラブに指定して検証を行い、段階を踏んで地域に移行します。

お問い合わせ: 厚岸町教育委員会生涯学習課(スポーツ係) ☎52-7785

15

2.実証内容と成果⑤

広報資料

部活の地域移行研修会の案内チラシ

R6年11月26日に部活動の在り方検討支援アドバイザーを講師に研修会を開催した。参加者から多くの質問がなされ、講師から回答いただいた。

R6部活の地域移行研修会のご案内

どうなるの？

部活の地域移行

今の厚岸の現状は？

地域に移行しないとどうなるの？

誰が指導するの？

活動の参加費用は？

部活動の地域移行をすすめている北海道教育委員会のアドバイザーから、全国的な動きや他地域の実践例などのお話を聞き、質問などの交流を通して、みんなで「厚岸のこれからの部活動の在り方」を考えます。

日時 令和6年11月26日(火)
午後6時00分～午後7時30分

会場 B & G 海洋センター

参加対象 小中高等学校の保護者や教職員、部活や少年団の指導者ほか、厚岸町民など誰でも

講師 部活動の在り方検討支援アドバイザー 伊□端□□隆□康□□氏

【問い合わせ】
厚岸町教育委員会生涯学習課(スポーツ係) ☎52-7785

厚岸総合クラブJOY説明会案内チラシ

R7年2月26日に、町民、保護者、教職員、指導者を対象とした説明会の案内チラシ。

部活動の地域移行から地域展開へ

つくり、まちづくり

厚岸総合クラブJOY説明会

対象 町民・保護者・教職員・指導者

令和7年
2月26日(水)
18:30～19:30

会場 真龍小学校体育館
(事前申し込みは不要です。)

POINT1 厚岸総合クラブJOYって？
これから中学校の部活動は、全国的に学校から地域に段階を踏んで移行されます。そこで厚岸町では、幼児から大人まで生涯学習・生涯スポーツができるよう、昨年「厚岸総合クラブJOY」を立ち上げました。

POINT2 説明会の内容は？
総合クラブJOYのこれまでの取組や、モデルクラブの成果について報告いたします。また、これからのスケジュール、活動する上での課題などもお知らせいたします。(質問もたくさんあればうれしいです)

POINT3 来ていただきたい方！
厚岸総合クラブJOYの活動は、ひとづくり、まちづくりを担います。保護者・教職員・指導者の他、多くの町民に参加いただいで、厚岸町の生涯学習環境について、考えていきましょう！

お問い合わせ 厚岸総合クラブJOY事務局
厚岸町教育委員会生涯学習課B&G海洋センタースポーツ係 ☎52-7785

企業版ふるさと納税チラシ

R6年10月18日にWeb上で募集を開始した。現在、内閣府総合サイト地方創生の企業版ふるさと納税ポータルサイト掲載中。

(北海道厚岸町) 厚岸総合クラブJOYに「あつけし」で、豊かに学び、育つ

生涯学習社会実現プロジェクト **ご支援を!**

厚岸町の紹介

- 厚岸町は、北海道の東に位置し、人口は約8,200人
- 「花と味覚と歴史のまち」
- 令和3年に「厚岸霧多布昆布森国定公園」に指定
- 杜嶋やアサリをはじめとした豊富な海産物、冷涼な気候での酪農など、1次産業を基幹産業として発展
- オリンピック金メダリストやプロ野球選手を輩出するなどスポーツ活動に力を入れているとともに、生涯学習環境が充実

厚岸町 町の公式キャラクター うみえもん

学校・地域のスポーツ・文化活動をめぐる背景

- 児童生徒数が、S62年に比べ1/4に減少
- 部活動数や少年団数が激減(児童・生徒は活動を選べない)
- 教員の働き方改革の推進

このままでは、地域からスポーツ・文化活動がなくなる!

そこで

- 部活の地域移行準備委員会を立ち上げ検討
- 「地域クラブ」を立ち上げ、モデルクラブで検証
- 国の実証事業への積極的な参加

令和6年6月 厚岸総合クラブJOY設立

目指すもの 幼児・小学生・中学生・高校生・大人すべてを対象とし、持続可能な生涯学習・生涯スポーツ活動を目指す「厚岸総合クラブJOY」の運営

課題

- 地域指導者の確保
- 練習会場や移動手段の確保
- 運営資金の確保

→サポーターバンクの設置
→運営委員会事務局が担当
→保護者からの会費
自治体等からの財政支援
企業様等からの寄付金・協賛金

2.実証内容と成果⑥

参考資料（活動写真）



【厚岸レーシングクラブの活動の様子】



【厚岸Jr.ウィンドバンドの活動の様子】



【厚岸キッズクラブの活動の様子】



【海事記念館子どもクラブの活動の様子】

2.実証内容と成果⑦

参考資料（活動写真）



【厚岸町部活動地域移行検討協議会の様子】



【厚岸総合クラブJOY運営委員会の様子】



【他市町村とのリモート会議による情報共有の様子】



【中学校保護者説明会の様子】

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年度

児童・生徒・保護者・教職員アンケート実施

部活動地域移行検討協議会設置、検討開始

受け皿団体や指導者の選定、モデルクラブの選定

指導者間（地域・学校）協議開始

モデルクラブ4団体の決定

教職員・保護者への説明

令和6年度

4団体の部員募集・活動開始

厚岸総合クラブJOY設立

R6年度モデルクラブの実証事業の検証

R7年度地域移行部活動の指導者間協議開始

休日における地域移行・地域展開の11団体の決定

町民・保護者・教職員・指導者対象の説明会

令和7年度

中学校全部活動の休日における地域移行

令和8年度

一部中学校の平日における地域移行（一部部活動の完全移行）

令和9年度以降

全部活動の完全移行

ステークホルダー

○学校、校長会、教頭会、町長部局、町教委、文化協会、体育協会、各スポーツ団体、各文化団体

経過

○令和5年度より厚岸町部活動地域移行検討協議会を設置し、推進計画を策定した。協議会では、地域移行に関する学習とモデルクラブを決定し、令和6年度から実証事業の検証を行った。

実施内容

○厚岸総合クラブJOYを立ち上げ、4団体（陸上クラブ、吹奏楽クラブ、子どもクラブ、キッズクラブ）が活動を開始した。検討協議会では、R7年度の移行部活動の検討を始めた。

課題と今後の展開

○財源の確保、指導者の確保、生徒の移送手段の確保が大きな課題となる。生涯学習社会の実現の具現化ともいえる厚岸総合クラブJOYの地域展開を町ぐるみで支える仕組みづくりが不可欠である。

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

厚岸町における部活の地域移行スケジュール

R5

- R5・6 厚岸町における部活動の地域移行に関するアンケート調査
- R5・7 厚岸町部活動地域移行検討協議会の設置
- R5・9 「みんなで考える部活の地域移行」研修会（町民・保護者・指導者対象）
厚岸町部活動地域移行に関する推進計画策定
- R5・10 部活指導者との面談協議開始
- R5・12 少年団・団体との面談協議開始
- R6・2 運営組織・モデルクラブの検討・決定

R7

- ◇中学校全部活動の休日における地域移行
- 1 11団体の休日における活動（部活動の地域移行、クラブの地域展開）
 - ・4月 募集開始 ⇒ クラブ活動開始
 - ・地域クラブ活動への移行に向けた実証事業の継続
 - 2 持続可能運営の在り方検討
 - ・財源（会費、自治体等負担金、寄附・協賛金の見通し）
 - ・指導者の確保
 - ・バスの移送（大会参加に係るバスの確保）
 - 3 平日における部活動の地域移行の検討
 - ・7種目の中から平日に移行するクラブの検討
 - 4 児童・生徒・保護者・教職員へのアンケート調査
 - ・これまでの検証とこれからの事業について
 - 5 実証事業の終了に伴う次年度からの見通し

R6

- ◇モデルクラブ4団体における休日の地域移行
- R6・4 モデルクラブ募集・活動開始
 - R6・6 厚岸総合クラブ JOY 設立
 - R6・10 厚岸町版指導者バンクの設置
企業版ふるさと納税 Web 募集開始
 - R6・11 真龍中に施設管理人配置
部活動地域移行説明会・研修会
 - R7・2 地域に移行する部活動の決定 厚岸総合クラブ JOY 保護者説明会

R8

- ◇一部中学校部活動の平日における地域移行（一部部活動の完全移行）
- 1 一部部活動の完全移行に伴うクラブ運営
 - 2 R9 年度以降の全部活動完全移行に向けた準備

R9
以降

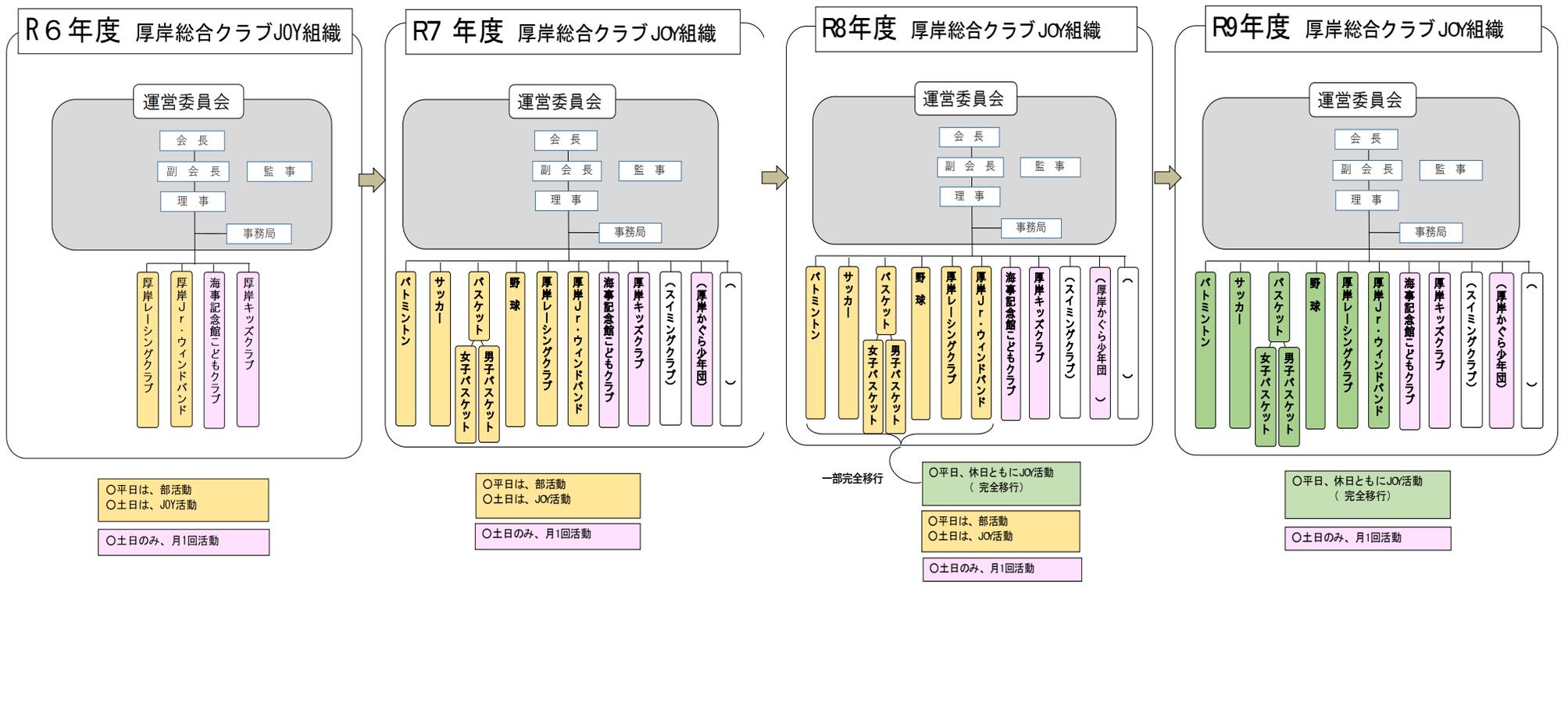
全部活動の完全移行

3. 今後の方向性②



部活動地域移行・地域展開のロードマップ

厚岸町における部活動の地域移行、厚岸総合クラブJOYの地域展開





令和6年度

文化庁活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道標茶町

自治体名：北海道標茶町

担当課名：教育委員会社会教育課

電話番号：015-485-2040

1.自治体の基本情報



基本情報

面積	1099.37 km ²
人口	6,881人
公立中学校数	3校
公立中学校生徒数	188人
部活動数	1部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

標茶町における文化系部活動については、中学校1校で1部活動が活動している。令和6年度の活動内容としては、標茶中学校の吹奏楽部が、平日は学校部活動として活動し、休日の活動については地域クラブ活動に移行した。地域で指導可能な人材がいたとはいえ、円滑な移行のため、当面は学校部活動顧問の教員も地

域指導者として活動に加わっている。他の町内中学校2校では文化系の部活動がない状況だが、今後希望する生徒が出てきた場合、移動手段や活動場所等の問題がでてくるとと思われる。

標茶町小学校児童数

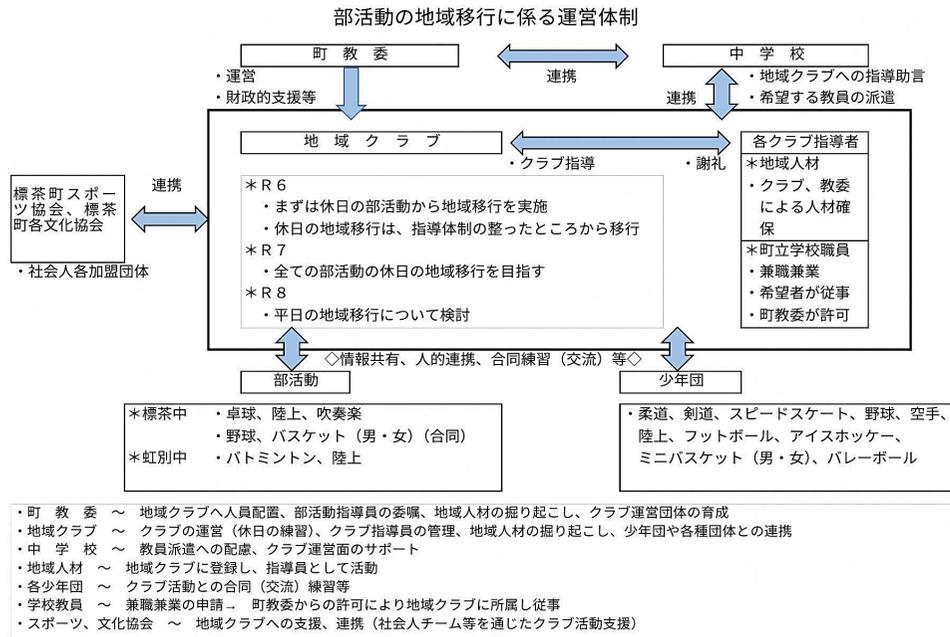


標茶町中学校生徒数



運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・地域クラブ設置に係る規則等整備
- ・先行して取り組む部活動による施行実践
- ・謝礼支払や連絡調整等の事務全般

◎町長部局

- ・予算措置

年間の事業スケジュール

月	日	内容
4	1	外部指導者登録開始
	30	標茶中学校卓球部保護者説明会
5		標茶町地域クラブ指導者バンク募集開始
	1	第1回標茶町部活動地域移行検討委員会
		陸上部活動開始
	11	卓球部活動開始
8	1	部活動在籍生徒向けアンケート調査実施
	28	第2回標茶町部活動地域移行検討委員会
	12	第3回標茶町部活動地域移行検討委員会
13		中学校部活動に関するアンケート調査実施 (小学4～6年・中学1、2年、その保護者)
	1	第2回部活動・地域クラブ活動関係者会議事例発表

2.実証内容と成果



地域文化クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（1）		標茶中学校吹奏楽部
全体の指導者数	3人	全体の運営スタッフ数	2人

②各クラブに関すること

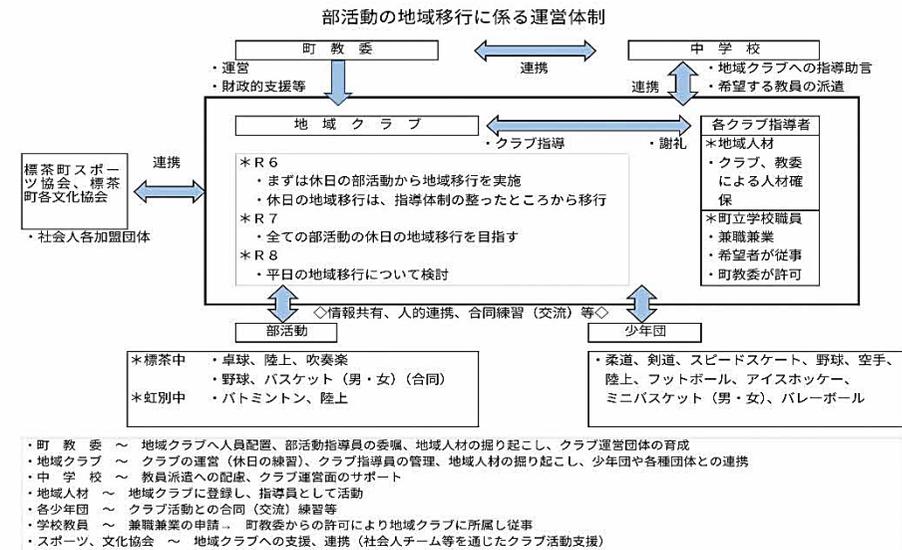
クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
標茶中学校吹奏楽部	標茶町地域クラブ	吹奏楽	月4回	9時～12時	中1 8名 中2 10名 中3 8名	4月～3月	標茶中学校音楽室ほか	3人 (内 外部指導者1人)	2人	無	部活動として

標茶中学校吹奏楽部の主な取組

● 標茶中学校吹奏楽部 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	吹奏楽
運営団体名	標茶町地域クラブ
期間と日数	陸上：5月1日～3月31日 月4回程度
指導者の主な属性	標茶中学校
活動場所	標茶中学校音楽室 ほか
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	中学生年会費 24,000円 （部費として）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

● 運営スタッフ

役割：教育委員会が担い、謝金事務や連絡調整を行う

● 指導者 中学校教員 2名 外部指導者 1名

役割：地域指導者・学校指導者とともに生徒の指導を行う

：学校指導者・地域移行を進めるため、地域指導者の補助として生徒の指導にあたる

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

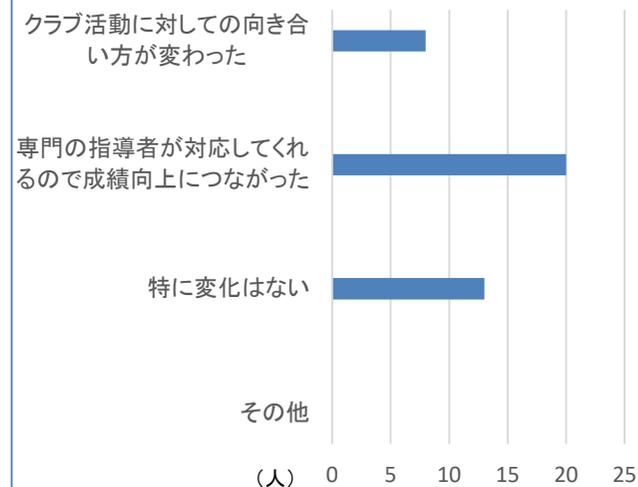
取組事項

- 「標茶町地域クラブ」として標茶中学校の吹奏楽部の休日における活動を地域クラブ活動した。
- 当面教育委員会社会教育課が事務局を担い、クラブが円滑に活動ができるようクラブの管理や指導助言を行った。

取組の成果

- 地域指導者と学校部活動指導者が綿密に情報を共有することで、休日の活動がスムーズに行われていた。
- 部活動に在籍している生徒を対象としたアンケート（スポーツ・文化同時調査）を実施し、41名から回答をいただき、31名から土日の活動が「前より良くなった」との意見をいただき、充実した活動が行われていることが確認できた。他の10名は「前と変わらない」という回答で「前よりやりづらくなった」という意見は0名であった。

地域移行して変化はありましたか？



(令和7年1月実施 生徒アンケートより)

今後の課題と対応方針

- 運営クラブである標茶町地域クラブの財源確保、指導者確保、移送手段の確保が最大の課題⇒R7においても引き続き検討。
- 先行して移行したクラブの成果と課題を生かして、R7年度はさらに中学校運動部活残り5団体の休日における地域移行を進める。
- 休日の地域移行から平日をも含めた完全移行を検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- 令和6年5月に標茶町地域クラブ指導者バンクを立ち上げ、指導者の確保に努めた。
- 町の広報誌にチラシ折り込みを行い広く人材を募った。

人材バンクの人数

○1名

バンク応募者の年齢構成

60代 1名

種目

○読み聞かせ

資格有無

○無

指導者バンクについて

クラブ指導者

- 標茶町地域クラブの活動の指導を行っていただくため、現在ある活動にとらわれず、幅広く募集した。
- 指導日、報酬の額等は、標茶町地域クラブ規定に基づく。

取組の成果

- 地域クラブ在籍生徒アンケートから「専門のコーチがきてくれたから専門的なことを学べるようになった」とか「一人ひとりに細かく丁寧に教えてくれる」などきめの細かい指導をしていただいていると感じ取れます
- 一方で、応募者が1名にとどまっているため、さらなる周知の必要性がある。
- 今後も、応募を継続し指導者の確保に努めたい。
- 外部指導者への指導・研修については実施することができず、外部講師やアドバイザー派遣制度等を利用し実施させたい。

部活動の地域移行が始まります

標茶町地域クラブ 指導者バンク登録者募集!

中学校部活動の地域移行に伴い、標茶町では、現在中学校で行われている部活動を、段階的に「地域クラブ」に移行していきます。そのため必要な指導者の確保が、大きな課題となっています。そこで、令和7年度から「地域クラブ活動」の指導者として協力していただける方を募集いたします。子どもたちと共に、スポーツや文化・芸術活動に動んでくださる方をお待ちしています。

募集条件等

- 募集内容 外部指導者（地域クラブ活動における専門的指導）
- 募集資格 青少年の健全育成に十分理解を有する20歳以上の者
- 業務内容 地域クラブ活動における練習及び練習試合等の指導等（内容は部活により異なります）
- 指導日及び時間 土日のうち1日、3時間以内
- 活動場所 町内の学校及び公共施設

指導者バンク登録までの流れ

（学校教員の場合は学校を通して申請していただきます）

- 募集案内 QRコードから申し込みいただけます。
- 教育委員会から連絡を差上げます。
- 連絡先：標茶町教育委員会 社会教育課 01544852040 担当：伊藤子

□申し込みいただいた方には、別途申請書に必要事項を記入していただき面接をしたうえで、指導者バンク登録の可否を決定させていただきます。※登録された方は、令和7年度からの活動にあたり当該部活動の担当者と相談（説明）をさせていただきます。

現在実施しているスポーツ、文化活動

- 現在の部活動
 - 【標茶中学校】（単独）吹奏楽、卓球、陸上、男子バスケット（合同）野球、女子バスケット
 - 【虹宮中学校】バドミントン、陸上
- 少年団等の活動
 - ・柔道
 - ・剣道
 - ・空手
 - ・陸上
 - ・フットボールクラブ
 - ・ミニバスケット
 - ・スピードスケート
 - ・アイスホッケー

※生徒が将来的に持続可能な場合、新たなクラブ（写真クラブ、絵画クラブ等）も含め受け付けます。地域の活性化のため、まずは指導者バンクへ登録をお願いします。※将来的には「平日」の指導も考えていますが、まずは、土日の部活動から進めていきます。

学校の部活動と地域クラブ活動の違い

これまでの学校の部活動	これから移行するクラブ活動
<ul style="list-style-type: none"> □学校の管理下で行われる活動 □教員の顧問が配置され、学校の教育活動の中で活動が行われる □学校の部活動に入学 □怪我、事故の際の保険は災害共済給付制度にて対応 	<ul style="list-style-type: none"> □学校の管理外で行われる活動 □運営の主体は教育委員会、地域クラブ運営事業者 □地域クラブ活動に加入 □保険は民間の保険にて対応 □指導費が支給されます

部活動地域移行とは？

あなたも、指導者として、共に子どもたちや地域の未来を支えていただけませんか？ まずは指導者バンクへ登録を!

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 部活動地域移行検討委員会に委員として各学校長にも参加していただき、クラブ活動の情報を共有した。
- 児童・生徒・保護者を対象としたアンケート調査を実施し、ニーズをとらえた。
- 中学校のPTA総会へ出向き、事務局から地域移行の取組を説明した。

取組の成果

- 校長会議などで、地域移行の状況について情報提供を行い、学校の理解を得ながら移行を進めることができた。
- 町議会では、6月定例会において本町における部活動の地域移行の進捗状況について取り上げられ、「2つの部活動において試行実践を開始」したことについて説明した。
- 部活動地域移行検討委員会（令和6年12月10日開催）にて、部活動の在り方支援検討アドバイザーの熊上氏をお招きし新たな地域クラブ活動について、運営母体の法人化についてなどの話を聞くことができた。

今後の課題と対応方針

- 教育関係者や検討委員には、標茶町地域クラブの取組状況は周知されているが、町民に対しての説明が不足しているとの指摘を受け、今後、町民や保護者に向けた情報発信の機会が必要と感じている。
- これまでの部活動のスクールバス活用から、地域クラブ活動でのバス等の活用について、関係各所との協議を進めていくことが重要。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 現在、標茶中学校の1つの部活動を先行して実施しているが他の中学校においても移行を進めるべく準備を進める。
- 該当となる学校の学校長から状況の聞き取りを実施。
- アンケートの実施

取組の成果

- 他の部活動の活動状況、所属人数等の状況聞き取りを実施。
- アンケートにより、まだ移行が進められていない虹別中学校及び中茶安別中学校の生徒が活動してみたいと思っている活動についてニーズの把握を行うことができた。
- 町内に3校ある中学校において、拠点となる学校の検討を進めることができた。

今後の課題と対応方針

- 移動手段の確保や各々の場所で活動するか活動場所を集約させるかの検討が必要。
- 今後、ますます生徒数が減っていく状況において実施する活動の種目の検討も必要。
- 指導者の確保が難しい地区もあり、指導者の確保も課題となる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- 標茶町地域クラブは、幼児から大人まで持続可能な生涯学習・生涯スポーツの環境整備を目的に、令和6年4月に設立。事務局は、当面教育委員会社会教育課が担うこととし、令和8年度までに平日を含めた移行について検討を進め、令和9年度以降、完全移行（休日、平日ともに地域クラブ活動）を目指していく。
- 令和5年6月及び令和6年12月に部活動の地域移行に係るアンケート調査を実施し、児童・生徒・保護者・教職員のニーズの把握に努めた。
- 令和6年8月に先行実施の生徒を対象にアンケート調査を実施した。

取組の成果

- 標茶町中学校吹奏楽部では1年間の活動を通して、多くの成果と課題を検証することができた。
- 吹奏楽部では現行の部活動に外部指導者が入り込み指導するというスタイルを確立させ学校指導者とともに質の高い指導を進めることができ、生徒へのアンケートにおいても概ね良好な意見をいただいている。
- 部活動地域移行の実証事業の大きな成果の1つは、学校指導者と地域指導者の綿密な連携を前提とした生徒への指導である。平日の部活動の指導と、休日の地域クラブの指導の方向性を同じにすることで、生徒は混乱なく活動することができた。

今後の課題と対応方針

- 現在、文化系の部活動が標茶中学校吹奏楽部のみとなり、他の2校の中学校で活動希望者が現れた場合の対応が必要となってくる。
- 学校指導者から地域指導者へのスムーズな移行、さらには平日の移行を視野に入れると、指導者間の連携がより必要となる。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 標茶中学校吹奏楽部は、学校音楽室で活動している。
- セキュリティ問題の解決をはかる。

取組の成果

- 従来の部活動のまま学校施設において活動することができた。
- セキュリティ問題については活動場所が学校の3階ということもあり、新たな扉設置等では解決が難しく取組を進めることができなかった。

今後の課題と対応方針

- 今後、活動場所の問題等、活動環境の検討が必要。
- 学校施設や備品（楽器等）を使用させていただいている状況であり、必要機材の補充や破損時等の対応についてルール策定を急ぐ必要がある。
- 開錠、施錠については学校顧問が依然として行っている現状があるため、今後、鍵の管理やスマートキーの導入等の検討が必要。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組 平日の移行

取組事項

○土日の部活動移行を先行し進めているため平日の移行についての検証を行う。

取組の成果

○まずは土日の移行を進めている段階であり、平日の移行については、令和8年度に一部中学校における地域移行を目指し、令和9年度以降に全学校全部活動の移行を目指すこととしたい。

今後の課題と対応方針

- 活動場所の問題、活動時間の問題等課題が多く残っている。
- 土日の移行においても指導者の確保が問題となっている状況の中、平日もとなるとさらに確保が難しくなることは明白。
- さらには、平日も活動したとなると謝金も増加するため、財源確保も課題となる。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

標茶町では、先行して1つの部活動について、実証事業を活用することにより円滑に運営を進めることができるよう取組を行ってきた。標茶町地域クラブとしては、幼児・小学生・中学生・高校生・大人すべてを対象とし、持続可能な生涯学習・生涯スポーツの活動環境を整えることを目的に、令和6年4月に設置された。実施主体としては当面、教育委員会社会教育課が事務局として担うこととし、標茶中学校吹奏楽部で試行実践をスタートさせた。

標茶町地域クラブの運営母体である運営委員会は、地域移行検討委員会メンバーが担うこととし、単に中学校部活動を地域に移行するのではなく、持続可能な活動環境を整えていくことを確認した。現在のところ新しい文化系の部活動が増えるという計画はないが、これまでの検証の成果を生かし、地域移行、地域展開を進めていく。

●成果の評価

標茶町地域クラブを立ち上げて1年が経過しようとしている。成果というよりも、地域移行検討委員会で協議を重ねるたびに新たな課題が見つかることを繰り返してきております。検討委員会発足当初から、すべて環境を整えてから新クラブを立ち上げるのではなく、歩きながら課題を見つけ、モデルクラブの成果と課題を明らかにして検証を進めていくということが常々話がでていた。したがって、まだ成果を評価する状況にはないことから、引き続き課題を拾いながら、標茶スタイルの地域移行、地域展開を進めていきたいと考えております。

●今後に向けて

各部活動との協議を進める中で、種目により課題が違ってくるのが浮き彫りとなった。指導者資格や審判資格が必要なクラブ、統一したユニフォームが必須のクラブ、単独ではチームが組めず他町村との合同チームを余儀なくされるクラブなど、課題は多様であり、部活動の地域移行が進まない要因と考えております。

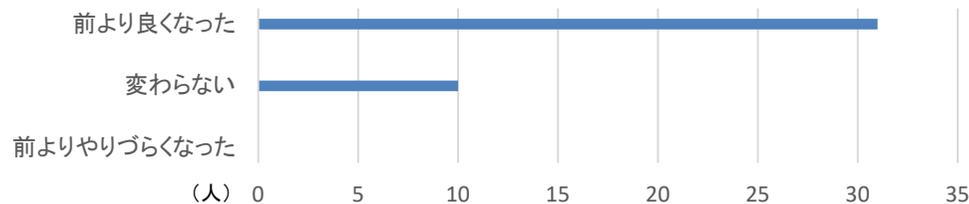
全国的な共通課題として、指導者の確保、財源の確保、生徒の送迎手段の確保などがあげられているが、種目ごとの課題や本町のような小規模自治体の課題などもとらえたうえで、R7年度は休日における全部活動の地域移行、標茶町地域クラブの地域展開を積極的に進めていく。

2.実証内容と成果②

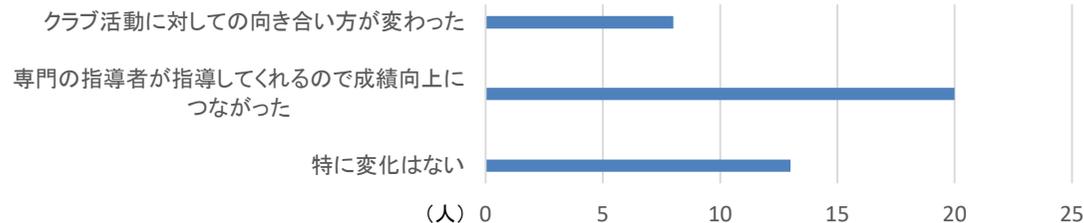
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果 (令和6年8月実施生徒アンケートより) 回答数 吹奏楽部 16名 (卓球 15名 陸上 10名)

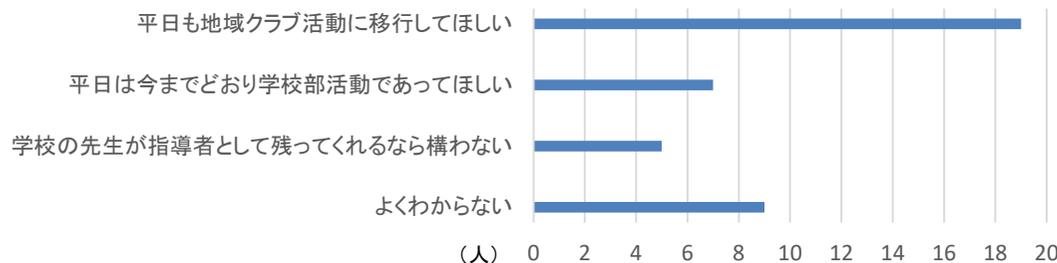
Q.土日の活動が地域クラブ活動となりましたがどう感じていますか。



Q.地域移行した土日のクラブ活動によって何か変化はありましたか。



Q.今後平日の活動も地域クラブ活動に移行する予定ですがどう思いますか。



●アンケートや聞き取りから

中学1年生の声 (吹奏楽部)

去年まではいなかったけど、平日と比べると練習しやすいし、質問もしやすい。

中学2年生の声 (吹奏楽部)

たくさんアドバイスとかをもらうことができるからよい。

中学3年生の声 (吹奏楽部)

顧問の先生とは違う指導方法を観点により、自分のできないところやできるところが見つけられるようになった。

指導者 (検討委員会での報告から)

吹奏楽の場合、指導者2名体制だと足りないと感じることがある。パートごとの練習とかもあるし、楽器運び等人数が必要なこともある。

広報資料

○部活動の地域移行を進めるにあたり、児童、生徒、学校教職員、地域指導者、保護者等、様々な関係機関・関係団体に説明するための資料が必要となったことから、教育委員会が作成した。

【地域移行説明のチラシ（表）】

「部活動の地域移行」が始まります



背景

- 少子化、学校の小規模化が進み、生徒・指導者ともに確保できず廃部となるケースが増え、もはや**学校単独で部活動を維持することが困難**になっています。
- 一方で小学校や地域では、すでに少年団やクラブ活動等、スポーツや文化芸術活動を支える組織があり、**専門的・継続的な指導によって**成果をあげています。
- 国や道は、中学校の部活動を学校から切り離すこととし、まずは土日の部活動を地域に移行することとしました。令和5～7年度を「**改革推進期間**」としています。
- 生徒が将来にわたってスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保するためには、**持続可能で一貫した指導体制を地域で確立することが**求められています。

学校だけで子どもたちのスポーツ・文化芸術活動を継続的に支えていくことは困難になります

めざすもの

子どもたちが将来にわたってスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保し、地域の持続可能な生涯学習・生涯スポーツの環境を整えます

【令和6年度 部活動の地域移行の進め方】

まずは**標茶中学校単独**で活動している **卓球、陸上、吹奏楽の3つの部活動**について、**土日の活動を段階的に地域に移行**します



卓球部：青藤正行（役員職員）※以前も外部指導者として協力を頂いています。



陸上部：矢島恵介（役員職員）※陸上少年団を受け皿とした活動を行います。



吹奏楽部：山林幹雄（自営業、民生委員）※川上ソフエロバンドクラブの協力で活動を支援します。

「困難なものを克服」していきます。

○基本的には土日のどちらか一日の活動を対象とします。部活動ごとに対応を検討します

○学校の顧問と外部指導者が共同で指導していただきます

〈令和6年度に検証する内容〉

(1) 練習内容や練習時間、大会への参加、中学校顧問と外部指導者との連携など、移行に係る指導体制について検証します。

(2) 費用面・練習場所・施設管理や運用など管理面について検証します。

(3) 指導者の確保、参加体制など指導者の体制整備について検証します。

【地域移行スケジュールのチラシ（表）】

部活動の地域移行のスケジュール

令和5年度の取組 つくる

1 部活動の地域移行検討委員会を設置（令和4年12月準備委員会を設置）
・PTA、社会教育、スポーツ・文化芸術団体、少年団関係者などの代表で構成

2 アンケートの実施
・ニーズの分析、目指す方向性の明確化

3 先進地の視察・講師を招いた研修会の開催など情報収集を行い標茶町における地域移行のイメージを明確にしていきました

4 伊達市教育委員会、登別市教育委員会の視察
・幕別町小田氏による講演会の開催 ・各種研修会等への参加

5 標茶町地域クラブ（仮称）の制度設計
・標茶中学校の部活動について、**土日の地域移行に向けた準備**
・指導者への依頼と説明 ・学校との打ち合わせ ・保護者への説明

令和6年度の取組 つなげる

1 標茶中学校におけるモデル（3団体）による試行実践
(1) まずは単独で活動している卓球・陸上・吹奏楽で実施し、実証事業を開始
(2) 体制の整備・指導者の確保、関係団体との連携、活動内容の検討、参加費の負担と支援施設活用方法 実施している状況を分析と課題を把握し一つ一つ解決していきませ

2 地域クラブ（仮称）設置に伴う運営方針・規則等の整備

3 指導者発掘の取組～地域クラブ指導者バンクの設置

4 地域クラブ（仮称）の準備組織の立ち上げ
・実施形態の検討 ・情報収集

5 地域移行を広げるための検討
(1) 他の部活や他の団体（少年団含む）へ広げるための条件整備
(2) 他の中学校へ広げるための準備

令和7年度の取組 ひろげる

1 全部活動の土日の地域移行を進める
実証事業の継続・他の市町村との連携・協働

2 地域クラブの運営形態の確立

3 実証事業終了に伴う次年度移行の見直し
実証事業の検証（アンケート調査等）

4 平日における部活動の地域移行の検討

〈地域移行を進める際のポイント〉

(1) 道・町が定める部活動方針を遵守し、過度な練習にならないよう努める

(2) 指導者は希望する教員もきめる

(3) 地域の指導者が確保できない場合は持続可能な体制を維持できないものと判断し廃止を検討する

(4) 必要性が認められ、指導者・希望者が今後継続的に見込めると判断される場合は新たなクラブ活動として設置を検討する

参考資料（活動写真）



【吹奏楽部の活動の様子】

2.実証内容と成果⑦

参考資料（活動写真）



【先進地視察の様子】



【先進地視察の様子】



【部活動の在り方検討支援アドバイザーを招いての研修会】



【部活動地域移行住民説明会の様子】

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年度



令和6年度



令和7年度

中学校全部活動の休日における地域移行

令和8年度

一部中学校の平日における地域移行
(一部部活動の完全移行)

令和9年度以降

全部活動の完全移行

ステークホルダー

○学校、校長会、教頭会、町長部局、町教委、文化協会、スポーツ協会、各スポーツ団体、各文化団体

経過

○令和5年度より標茶町部活動地域移行検討委員会を設置し、推進計画を策定した。委員会では、地域移行に関する学習と先行実施部活動を決定し令和6年度から実証事業の検証を行った。

実施内容

○標茶町地域クラブを立ち上げ、1部活動（標茶中学校吹奏楽部）が活動を開始した。検討委員会では、R7年度の移行部活動の検討を始めた。

課題と今後の展開

○財源の確保、指導者の確保、生徒の移送手段の確保が大きな課題となる。

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

標茶町における部活の地域移行スケジュール

